

季刊・令和6年1月15日発行・第60巻第1号（通巻501号）

ISSN 0014-9586

Feed Trade

WEB版

VOL. 60 NO. 1



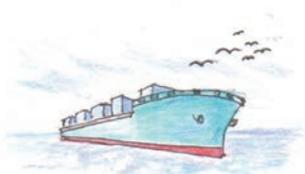
2024

1
~3

飼料輸出入協議会

JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION

2024年 1～3月号



目 次

新春のご挨拶／永田 義典…… (2)

年頭のご挨拶／廣岡 亮介…… (5)

<新春海外だより>

ムンバイ／神谷 淳…… (9) ニュージャージー／Claudia Gaard… (16)

ゴイアニア／勝木 太陽 …… (21) ケニア／伊藤 響子 …… (27)

シドニー／岩淵 蒼太…… (33) 大 連／中野 純平 …… (39)

ホルト・アレグレ／伊良知正太郎… (43) ホーチミン／白木 友宏 …… (50)

2023年10大トピックス…… (55)

シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第38回
「愛情を品質に。」～人とペットの想いをつなぐ～/ペットライン株式会社…… (56)

シリーズ●各地の食生活——第16回
モザンビークの首都・マプト食事情／草間 哲也…… (60)

シリーズ●各商社の担当者紹介⑬ 兼松株式会社
我が社の副原料担当者3名のご紹介／山本 大智…… (64)

「新春賀詞交礼会」4年ぶりに平常開催…… (68)

第55回 (2023年) Feed Tradeアンケート当選者発表…… (73)

第56回 (2024年) Feed Tradeアンケートのご案内…… (74)

●New Balance<16>

南米産地からの影響が強まる世界のトウモロコシ市場／岩崎 正典…… (75)

春季為替セミナー開催のご案内…… (93)

編集後記…… (94)

新春のご挨拶



飼料輸出入協議会理事長

永田 義典

(三菱商事株式会社 穀物飼料部長)

まず初めに、年始の能登半島地震でお亡くなりになられた方々へのご冥福と、被災された方々や生産者の皆様が一日も早く日常に戻られることを、心よりお祈り申し上げます。

旧年中は関係先の皆様方より格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。飼料輸出入協議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2023年は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、ようやくパンデミックが終息し、人の往来や街に活気が戻った年となりました。WBCでの日本代表の14年ぶりの優勝やメジャーリーグでの大谷選手が日本人初の本塁打王獲得しMVPに選出されました。また、将棋界で藤井聡太九段が史上初の八冠独占を成し遂げる等、明るい話題が多い一年でした。

一方で、世界情勢はますます混迷を極めた年でした。数年前からの

米中対立に加えて、2022年2月から続くロシアによるウクライナ侵略の長期化、10月にはイスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突勃発等、地政学リスクの高まりを実感させられる年でもありました。世界各地で分断の構図が発生し、過去数十年続いてきた国際秩序や平和を前提とした国際協調体制が変化せざるを得ないことを強く覚悟させられた年でした。

今年の世界情勢を考えてみますと、1月の台湾での選挙を皮切りに米国をはじめ多くの国・地域で選挙が予定され、各国が内向き志向になる懸念が感じられます。それら選挙結果次第では従来の政策の転換の可能性もあり、既に混迷する世界情勢の更なる複雑化・不透明化も想定されます。経済面では欧米のインフレの鎮静化、利下げによる投資の回復等、世界経済の成長が期待される一方、中国景気の減速感の強まりが懸念されます。

当業界関連に目を向けますと、昨年の南米産穀物の大豊作でシカゴ相場は一服しているものの、未だ歴史的な円安水準や海運の混乱など、価格動向には引き続き注視が必要です。さらに、基金の問題、物流の2024年問題、その他にも、他産業と同様に、人手不足や燃料費高止まり、工場・設備の老朽化対策等、引き続き多くの難題にチャレンジしていく必要がございます。

こうした環境下、微力ながら、飼料畜産業界各位並びに管轄官庁関係各位のご指導ご鞭撻を賜りつつ、業界の健全で持続的な発展のため

に力を尽くす所存でございます。

今年の干支は甲辰（きのえたつ）。「物事の始まり，芽吹き」や「龍の如く，天に向かって伸びゆく」といった意味が込められているとも聞きます。干支の如く，今年が皆さま方にとってますますのご健勝とご活躍の一年となりますことを祈念いたしまして，新年のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎え，より一層の誌面の充実を
目指してまいります。

昨年『黄色い小冊子であった貴誌は仕事の合間に手に取りやすく，穀物情勢などの記事だけではなく，幅広い分野の読み物が掲載されており，以前から楽しみにしている』とのお声をいただきました。

編集委員一同皆様のご期待に応えられるよう尽力いたします。

本年もご愛読のほどよろしく願いいたします。

2024年1月

Feed Trade 編集委員会一同

年頭のご挨拶



農林水産省畜産局飼料課長

廣岡 亮介

新年、明けましておめでとうございます。

令和6年の新春を迎えるに当たり、年頭のご挨拶を申し上げます。

〇はじめのご挨拶

日々飼料原料の安定供給にご尽力いただき、この場を借りて心から御礼申し上げます。世界情勢の変化の加速化に伴い、飼料原料を安定的に、かつ、できるだけ安価に調達することがますます重要になっています。引き続き調達先の確保や多角化、情報の収集など、原料供給の安定化のためにお力を賜りたく思います。

また、飼料価格の高騰を受け、国内では国産飼料の生産・利用の拡大を強力に進めます。これは、短期的には配合飼料の使用量減となるかもしれませんが、裾野の広い我が国畜産業を持続的に発展させるために不可欠な取組です。貴協議会の皆様にも、ぜひ飼料原料の安定供給とともに、国産飼料の生産・利用の拡大に絶大なご協力を下さりたく、お願い申し上げます。

〇飼料価格高騰について

我が国農林水産業は、長期化するロシアによるウクライナ侵略、歴史的な

水準の円安などにより、大きな影響を受けました。

畜産業でも資材全般のコストが上昇し、特に配合飼料は、原料となる穀物等の大半を輸入している我が国では、とうもろこしの国際価格が比較的落ちついた推移となった中でも、高い価格水準で推移しています。

このような飼料価格高騰に対しては、初動対応として配合飼料価格安定制度による激変緩和が行われており、配合飼料メーカーや生産者に負担いただいた多額の積立金と国の積立金を併せた財源により、令和2年度第4四半期以降、補填金が生産者に交付されています。また、令和5年度からは、同制度内に緊急補填（新たな特例）の仕組みを創設し、飼料価格の高止まり時でも補填金が交付されることで、経営への影響が緩和され、多くの畜産農家の営農継続を支援することができたと考えています。これらの対策に、総額2千億円を超える異例の国費が投じられました。

また、昨年11月に成立した政府の補正予算では、飼料対策にも活用することができ「重点支援地方交付金」が設けられ、農林水産省から地方自治体に配合飼料価格高騰対策への支援例を示すなど、複合的に支援しています。農林水産省としては、畜種ごとの経営安定対策や金融支援など、各種施策を総合的に活用して、引き続き食料の安定供給に必要な支援をまいります。

○国産飼料の生産・利用拡大

飼料の自給率は26%と、多くを輸入に依存しております。飼料価格の高騰や高止まりにより、海外からの飼料原料の安定供給はもとより、国内での飼料生産の重要性について、あらためて畜産の現場で意識が高まっていると思います。我が国の国土面積を考えると、すべてを国産で賄うのは難しいですが、特に粗飼料は、しっかり増産、利用していくことが重要です。

ただし、一口に国産飼料の生産・利用拡大といっても、飼料作付地の確保、流通体制、品質面での安定性や信頼の構築に課題があります。

このため、令和5年度補正予算では、耕畜連携の推進などこれまでの取組に加え、①国産飼料の品質表示を行って販売を拡大する取組や、②国産粗飼料の広域輸送の取組への支援により、更なる国産飼料の円滑な流通を促してまいります。

また、畜産経営では規模拡大により飼養管理に必要な労働時間が増加し、地域における労働力も減少する中で、飼料生産の労働力確保が難しくなっています。こうした中、同じく労働力確保が難しく、かつ、主食用米の需要減少に対応していかなければならない耕種農家が、省力的に作れる飼料作物に参入することは、畜産農家と耕種農家双方にメリットがあります。加えて、農地の維持にも有効であることから、今まさに、畜産農家と耕種農家と一緒に、地域の飼料生産をどのように進めていくか、しっかり考えていく好機となっています。現在、市町村において地域の農業の将来のあり方を示す地域計画を策定しており、この中で地域で飼料生産にいかに取り組みか検討してほしいと考えています。

○物流の2024年問題について

本年4月1日には「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が完全施行され、いよいよ物流の2024年問題が顕在化してくると見込まれます。家畜飼料の輸送については、ドライバーが不足することに加えて、高所作業など飼料輸送に附带的に発生する作業に対する負担への懸念から、他の品目に比べて人手不足がより深刻となるとも言われています。

農林水産省では、これまで畜産生産者や飼料メーカー・販売店に対して、飼料輸送体制の維持へのご協力をお願いするとともに、飼料輸送の合理化を進める実証の取組を支援してまいりました。

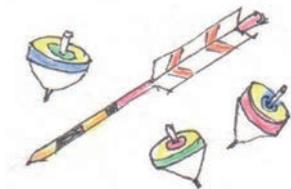
今後も飼料の輸送が滞りなく行われるよう、引き続き、飼料輸送の合理化に係る皆様の取組を支援してまいります。

○おわりに

農政の基本理念や政策の方向性を示す食料・農業・農村基本法は、制定から約20年が経過し、一方で世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、地球環境問題への対応、海外の市場の拡大等、我が国の農業を取り巻く情勢が制定時には想定されなかったレベルで変化しています。このため、令和6年の通常国会への改正法案の提出に向けて作業を加速化しています。

このような中、畜産・酪農の生産基盤の強化や持続的な畜産物生産を推進し、我が国の畜産・酪農の一層の発展に努めてまいります。

皆様におかれましては、昨年にも増して、畜産・酪農行政へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層のご健勝とご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶といたします。



新春海外だより



まだまだ知られていないインドの一面

インド三井物産(株) ムンバイ支店

神谷 淳



飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆さま、新年明けましておめでとうございます。インドはムンバイより謹んで新年のお慶びを申し上げます。

入社間もない頃からカレーを食べ続けた結果実現したインド赴任も1年9カ月を超えました。食当たりも水当たりもインドの人々と同じぐらいの頻度でしか当たらなくなりました。夜通し鳴るクラクションの音や野犬の鳴き声がしても眠れるようになりました。車線どころか一方通行や信号さえ守らないスリル満点の車移動でも眠れるようになりました。たまに日本に帰国すると、服や体(?)からインドの匂い(スパイスの香り?)がすると家族に言われますが自分ではその匂いに全く気が付きません。人間の適応力というのは大したものだと今更ながら実感しています。

当地駐在員仲間の間では、新たにインドに赴任してくることを「入印」、インドから日本や他の国に転出することを「退印」と言います。転出する方の送別会を「退印祝い」と呼ぶのは言い得て妙ですね。前赴任地のタイからイ



ンドに転勤されてきた方を「天国から天竺」と表現された時には思わず吹き出しました。

さて、インドという国について皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。人口が約15億人で中国を抜いて世界第1位、GDPは世界第5位で近い将来日本を追い抜く、2023年のG20議長国、菜食主義が主流で肉をあまり食べない、貧富の差が激しく路上生活者がいる一方でとんでもない大金持ちがいる、映画では

歌と踊りが欠かせない、などなど。最近ではインドに対する理解は日本でもかなり進んできている（？）と思いますが、上記はすべてその通りです。一方、まだまだ知られてないインドの側面があるのも事実です。

今回は、情報サイトや報道ではあまり語られない、より生活に密着したインドの一面を少しでもご紹介したいと思います。インドは大変大きな国であるうえに多様性のお化けのような国なので、突っ込みだすときりがなく語り切れません。ということで、ほんの一部を切り取ったご紹介となりますがどうか短時間お付き合いください。

インド人はお祭り大好き

此方に住んで実感したのは記念日やお祭りが多いということ。ムンバイの

場合は、1月1日の元旦に始まり、Republic day（共和国記念日）、3月のHoli（カラーフェスティバル）、Good FridayとEaster、4月のIdul Fitri（断食明け大祭）、5月Buddha Purnima（釈迦生誕日）、6月Idul Adha（イスラム犠牲祭）、8月Independence Day（独立記念日）、Janmashtami（クリシュナ生誕祭）9月Ganesh Chaturthi（ガネーシャ祭り）、10月Gandhi Jayanti（ガンジー生誕祭）、Dussehra（ダシエラ祭）、11月Diwali Padwa（インド正月：光の祭り）、12月Christmas（クリスマス）というのが人気のあるお祭りです。これ以外にも実はまだまだお祭りがありますが、つまりこれは、国の





行事に加え様々な宗教の行事を全て取り入れているということだと思います。

人口の8割を占めるヒンズー教がマジョリティであることは事実ですが、その他の宗教も受け入れる、即ち多様性を認めるというのがこの国の基本姿勢なので、それぞれの記念日が大切にされ、お祭りが盛大に祝われます。中でもムンバイの人々が最も大切にしているのはガネーシャ祭りです。像の顔を持つヒンズーの神様のお祭りですね。各家庭や街中で大小さまざまなガネーシャ像が祀られ、祭りの最終日には祀っていたガネーシャ像を願いを込めて海や川に流します。このガネーシャ像ですが、地域コミュニティで立派な像を競うように作ります。なかには高さ5m以上の巨大なものも。人気のある有名なコミュニティのガネーシャ像は見物するためにインド全土から人が集まり、10時間以上も並ぶことになります。像を見るのに10時間以上並ぶイベントって日本ではありませんよね。祭りにかかる情熱は並々ならぬものがあります。当社にもガネーシャ祭りのために毎年1週間仕事を休む祭り馬鹿な職員がいます。

なお、祭りの際には、音楽が大音量で鳴り響き、人々は踊り、夜通し花火

が打ち上げられます。先日は自分の乗る車に打ち上げに失敗した花火が直撃、ロケット弾を撃ち込まれたかと思いました。インド大都市は大気汚染がひどいのですが、汚染の一因が祭りの際の花火による煙だと言われています。

インド人はおせっかい？

街中で道に迷い人に聞くと、自分も道を知らないのに教えてくれようとして迷宮入りする、なんて話を聞いたことがあると思いますが、今やグーグルマップで道を調べられる時代、これは過去のお話です。一方、インドの人はおせっかいというか、サービスが過剰なことが良くあります。レストランでは自分のお皿に料理を盛り付けてくれますが、「もう結構、要りません」と言ってから必ずもう一回盛り付けようとしてくれます。それこそ、「いやいや、遠慮するな」と言わんばかりに盛り付けようとするので、明確にお断りする必要があります。それでも「そうは言っても、本当は食べられるだろ？」ともう一回ぐらい攻めてくるので、本当に毅然とした態度でお断りする必要があります。

職場でも、此方の人は朝食・昼食・おやつをキャンティーンでよく食べていますが、目が合うと必ずと言ってよいほど分けてくれようとしています。辞退してデスクに戻ると結構な量をおすそ分けで持ってきてくれたりすることが何度も。「遠慮ではなく、本当に要らないんです」とは思っても言えません。。。学生の頃、長野のスキー場の民宿で住み込みバイトをしていたことがありますが、そういうば、あの民宿のおじちゃん・おばちゃんと同じだな、と。「もうお腹いっぱいだから要らない」と言っても「何を遠慮してるんだ、若いんだから食べなさい」と滅茶苦茶食べさせてくれたことを思い出しました。なんとなく昔の日本を思い出します。

ジュガードの精神

インドには問題解決を図るための創意工夫の精神を表す「ジュガードの精神」というものがあります。このジュガード、きちんとした創意工夫からそ



うでないものまで、実に幅広いレンジで使われます。ある日、バスルームの電気をつけるスイッチパネルが火と煙を噴き作動しなくなりました。配線がショートしたようです。す

ぐに技師を呼んで修理します。「修理完了」ということで、帰りましたが、また程なくして火を噴き煙を噴き動かなくなりました。同じ技師が来て修理します。見ていると、スイッチパネルの裏のショートしたコードを切り取り、繋ぎなおすだけで「修理完了」。当たり前ですが再度ショートします。すると電気技師、「Sir, この家で使っていない部屋のバスルームはあるか？」と。使っていないバスルームからスイッチパネルを取ってきて付け替えるのだと。それだと此方の部屋は良いけど、あちらの部屋は使えないじゃないか、と言うと「あちらの部屋を使う前に修理するからNo problem, Sir」。自分はジュガードを創意工夫ではなく、その場しのぎと覚えました。

行 列

空港での出来事です。此方の人は行列への並び方が違います。チェックインカウンターが2つあれば2列に並びます。自分は列は1つで、2つのうち空いたカウンターへ列の先頭の人が行く形（所謂フォーク並び）が公平且つ合理的だと思い、そのように2つのカウンターの真ん中に並びました。すると後から来た紳士が自分の横に並ぶではないですか。「いやいや、私の後ろに並んでください。先に空いたカウンターに先頭の私がまず行きます。あなたは次に空いたカウンターに行けば良い。フェアで合理的でしょう」と説明、紳士は「カウンターは2つあるから2列になったまでだ」と理解出来ないご様子。その日は自分もなぜか引く気になれず、軽い口論になったものの強く主

張し続けました。「こいつ何言っているんだ？」とクエスチョンマークが浮かんだ顔をしながらも、紳士は最終的にしぶしぶ従ってくれました。

さて、無事に搭乗手続きやイミグレを終え、いざ搭乗となった時、搭乗口の前には何本かの列が出来ていました。自分はある列に並んだのですが、意図せず、偶々途切れた列に横入りする形になって



しまいました。本当に意図せずです。と、自分に横入りされた形になった方を見ると、なんと先ほどのチェックインカウンターの紳士。紳士は余裕たっぷりの顔で「どうぞどうぞ、おはいりなさい」と。わざとではないんです、と説明したところで何と説得力のないことか。バツが悪いまま搭乗し、席に着くと、なんと件の紳士は隣の席でした。。。

やっぱり語りだすとキリがなくなりそうなので今回はここまでとさせていただきます。残念ながら恒例の新年賀詞交礼会には参加出来ませんが、いつか帰任の際には参加したいと思っていますので、その際にお話し出来ればと思います。改めまして本年もどうぞよろしく願いたします。

Greeting from New Jersey

TOSHOKU AMERICA INC.
Commercial Director
by **Claudia Gaard**



Happy New Year to the Japan Feed Trade Association!

I appreciate the opportunity to share a little something about myself and the community that I live in.

My name is Claudia Gaard, a U.S. citizen, living in the state of New Jersey (NJ) for most of my life. I grew up in Closter, NJ, but today I live in Haworth, NJ, which is just a mile away. It is a wonderful area of NJ, with many nice parks, restaurants, and shopping, while being near New York City, and having a great school system. In fact, both of my daughters attended the same high school that my husband and I attended, Northern Valley Regional High School in Demarest.

Haworth is a borough of Bergen County, with a population of just about 3,340 residents. Despite the small population size, the town offers many community activities, including a swim club, tennis courts, a pickleball club, a winter skating rink, a women's club, a public library, the volunteer fire department, and ambulance corps., as well as the Haworth Arts Committee, which I am the chairperson for.



The Haworth Arts Committee was established nearly 15 years ago, with the intention of bringing music and cultural activities to the community. The committee consists of 5-6 volunteer members who all live in Haworth. We provide a variety of cultural events throughout the year, free of charge, with donations provided by local businesses and town residents.

The first event that I will share with you is what we call the “Haworth Coffeehouse”. It is an “Open Mic” show, held at the Haworth Library, every few months, featuring singers, musicians, poets of all ages, from the local area. It is a fun and safe environment for people to enjoy an evening out with friends and family.



HAWORTH'S STARS SHINE

'Spirit of community' stirs open-mic extravaganza

Cathryn Knaggs, Tatum Levine, Ellie Lebel, and Shayne Heregthy delight at Haworth Municipal Library in an extravaganza of local talent.

BY HILLARY VIDERS FOR NORTHERN VALLEY PRESS

THE HAWORTH Coffeehouse and Haworth Arts Committee recently welcomed the public to one of its famous Open Mic Nights, a free event that showcases local talent of all ages.

The Haworth Municipal Library was the venue for the musical extravaganza, and it was filled with close to 100 proud parents, grandparents and friends of the performers.

The event was organized and hosted by the Haworth Arts Committee under the direction of Claudia Gard, along with committee members Tara Kohut and Janet Cohen.

To recreate a Greenwich Village style coffeehouse, volunteers set up microphones, streams of lights, a piano, and cozy tables next to the stage.

In addition to the array of musical talent, the Open Mic event had a concession of home baked brownies, along with

Continued on page 18

The committee also holds two annual events each year. One is called the “Midsummer Night’s Jam”, that I created, because we have so many professional and amateur musicians and singers, as well as music producers, that live in the town of Haworth. The MNJ, as I like to call it, is a 4-hour music concert held in July or August each year, at the Memorial Park in Haworth. It is an outdoor concert with a stage and a professional soundman, that typically draws over 100 attendees, who bring dinner and a bottle of wine, while enjoying an evening of Haworth’s finest performers. We typically have 12-15 different acts, all of whom contain at least one Haworth resident, performing a variety of musical genres, including rock, jazz, pop, and Broadway. As one of my hobbies, I sing in a band and have performed in the MNJ most years. (You can see me and my band in the below newspaper clipping.)





The second annual event was created by my husband and I, called Ghost Stories at the Pond. It is a one-hour show, held at the Haworth Pond, and gazebo, where the committee members decorate the pond area and create a “haunted stage” where my husband reads two “scary” stories, that he wrote himself, and I provide audio/visual background sounds and photos. Two other committee members recite poetry, and we have the Haworth Public School music teacher join us for a Halloween sing-along with the children attending the event.



Ghost Stories at the Pond is a town favorite, always held the Saturday before Halloween, so children dress in costume, as do the committee members. My husband, the storyteller, always dresses the same, as he has become somewhat “famous” amongst the town children, who ask to take photos with him. I like to change up my costume and make-up each year.



Being a part of such a fun committee is a real pleasure. Although a lot of work goes into each of the events that we have created, giving back to the community is extremely rewarding. And quite often our events are written about in the local newspapers, as you can see in the above photos of articles. If you are interested to learn more about the Haworth Arts Committee, you can follow us on Facebook and Instagram. On our Facebook page, you can find some videos of a recent Holiday Concert held at the Haworth Library, featuring Tony Award winning soprano, Gay Willis, accompanied by music composer, Yasuhiko Fukuoka, on piano, performing the song, Sakura.

I hope that you enjoyed my article and I wish you all the best in 2024!

地球の裏側、ブラジルより新年のご挨拶

三菱商事(株) (ポルトガル語研修生)

勝木 太陽



皆様、新年明けましておめでとうございます。ブラジルはゴイアニアより、謹んで新年のお慶び申し上げます。

入社当時の2020年から猛威を振るっておりました新型コロナウイルスも一段落したかと思えば、日々様々なニュースが飛び交う目まぐるしい世界情勢の中、早いものでブラジルへ赴任して約7カ月が経ちました。皆様へ筆を執らせていただきますのは甚だ恐縮ですが、新年のご挨拶の場をお借りしまして、当地のご紹介をさせていただければと思います。

■ゴイアニアという地

ゴイアニアは、ブラジルの玄関口サンパウロから更に飛行機で約1.5時間、ブラジル中西部ゴイアス州に位置しております。日本との時差は12時間、友人・同僚に時差を覚えてもらうのはとても簡単です。赴任が確定した当時、インターネット上で情報収集をするものの明確なイメージが湧くこともなく（ゴイアス州ゴイアニア…ゴイゴイスー…スーを差し上げます…）、あれよあれよ



ゴイニアの街並み

としているうちに赴任後約7カ月が経ちました。

ゴイニアは、何かの縁なのか、私が高校時代まで過ごした川崎市・大学時代を過ごした京都市と略同じ約150万人の人口を抱えており、ブラジルでも近年注目を浴びている成長都市です。高層マンションが立ち並ぶ閑静なエリアが拡大しており、ショッピングモール、映画館、スーパーマーケット、ホテル、レストラン、バー等々、は勿論のこと、サッカースタジアム、テニスコート、プール、ゴルフ場（とは言いつつも1つだけですが…）等、娯楽を含め生活のインフラはある程度は整っております。強いて言えば、マリンスポーツを行う場合は、最寄りの海まで約1,000kmの移動が必要なことくらいでしょうか。週末には緑豊かな公園や、ショッピングモール、プール・テニスコート・バー等が内包された施設にお洒落なゴイアーノ（ゴイアスで生まれ育った人たちの呼称）達が集います。

■地球の裏側で話されている言語

この場をお借りしまして、皆様もあまり馴染みの無い当地の言語を少しばかりご紹介させていただきます。

赴任して最初に驚いたことですが、当地ではまず英語が通じないということです。日本と同様、小学校～大学までの期間に英語学習をするものの、簡単な挨拶・数字でさえ通じないことが多々あります。ブラジルでは選択学部・コースが将来の職業に強く結びついているため、外国と接点のある職業や英語講師を目指さない限り、全くと言っていい程、英語と接する機会はありません。

せん。更に、日本の教育機関対比、やはり教育水準が低い現状も否めず、“英語を話せる人は話せるが、知らない人は全く知らない”という状態で、日本人の“何となくは分かる”とは異なる様相です。

さて、当地で話されている言語ですが、公用語はポルトガル語になります。1500年にポルトガル人がブラジルを発見、植民地化した際にポルトガル語がもたらされ、奴隷制度によりアフリカ系の言語が入ってきても、依然として支配言語はポルトガル語、ブラジルが1822年にポルトガルから独立した際に正式に国家言語として確立された、という歴史があります。ブラジルのポルトガル語は、ブラジルという広大な土地で多種多様な人種・言語の影響を大きく受けており、ポルトガルのポルトガル語と若干異なります。ブラジルのポルトガル語の方が、テンションが高く、抑揚が激しく、情熱的なラテン系言語といったイメージです。(YouTubeで“ブラジル人とポルトガル人の訛りの違いを日本語で再現してみた”というショート動画を見て頂ければイメージが湧くかと思います)

ブラジルに來られた際に街中で聞く現地人の会話は、リアクションの大きさも相まって、喧嘩でもしているかのように勘違いしてしまうかもしれませんが、渾身のギャグを言っているだけ等、言語のギャップを日々感じております。(赴任当初は慣れない機会も多くありましたが、今ではブラジルポルト



リオのカーニバル

ガル語の独特な音が心地良く感じてしまっている気がします)

■地球の裏側の食文化

ブラジルでの食文化は、日本の約22倍という広大な国土からもご想像が容易かと思いますが、地域によって大きく異なります。沿岸部では海鮮料理、内陸部では豆、肉料理が有名です。(因みにブラジルの玄関口サンパウロでは世界

中の料理を召し上がっていただくことが出来ます)

さて、私の生活拠点のゴイアニアですが、農畜産業が主流となっていることから、やはり豆・肉料理がメインで、日本でも大人気のシュラスコがなんと2,000～3,000円/人と安価乍らもとても美味しくいただくことが出来ます。他にも、肉と



シュラスコ

豆を煮込んだフェイジョアーダ、肉やチーズをパイ生地で包んで揚げたパステル、チーズパンのパオ・デ・ケイジョ等、赴任前には知る由もなかった郷土料理が沢山ありますので、足を運ばれる機会にはぜひご紹介させていただければと思います。

一方、苦言を呈すとすれば、和食になかなか巡り合えないということでしょうか。もとい、“ブラジル流和食”は存在しますが、私達が“慣れ親しんだ和食”に関しては、食材が高価且つ限定的であることから全くと言っていい程、浸透しておりません。その結果、ゴイアーノに人気の高級和食レストラン“Kanpai Blue”では、チーズ寿司スイートソーストッピング、サーモンイチゴ添え等々、苦笑いしてしまう様な料理が提供され、知人からは「このジャパニーズレストランは最高だね！！」と言われてしまう始末です。

■強烈なサッカー文化

ブラジルと聞いた際に、路上でサッカーをする子供達の姿を想像される方もいらっしゃるのではないかと思います。実際、私がサンパウロに到着した際に、空港の入国審査場でサッカーをしている子供達を見た空港スタッフが





一緒にサッカーボールを蹴っていた姿には驚愕しました。

ゴイアニアも例外ではなく、サッカー文化が強く根付いています。街中の至る所に、サッカー場、フットサル場があり、また、週末に限らず地元チームの試合の際には、スタジアム内外がお祭り騒ぎになり、サポーターが敵チームと揉め、機動隊が出動することも稀ではありません。応援しているチーム以外のサッカーはサッカーではない、と現地人は口を揃えて言うため、お越しになられる場合はとりあえず議論には参加しないで様子を伺うことをお勧めします。ただ、スタジアムでのサッカー観戦はやはり、凄い熱量に圧倒

されますし、一種のショーとして非常に見応えがあります。かく言う私も、当地でのサッカー観戦にはすっかりはまっております。

つらつらと取り留めのない駄文となってしまいましたが、地球の裏側のブラジルという国の雰囲気少しでも感じていただける内容となれば幸甚に存じます。

■最後に

さて、新型コロナウイルス蔓延時から経済が少しずつ回復し、それでも紛争や異常気象等、世界情勢は未だ予断を許さない状況ではありますが、弊社と致しましてはこれまでと変わらず、飼料畜産業界を含めた食料の安全供給に貢献出来るよう、日々尽力していく所存です。

日本の皆様におかれましては、寒さも厳しくなる季節頃かとは存じますが、どうかお体にはご自愛くださいませ。

末筆ではございますが、飼料輸出入協議会及び会員各社の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ケニアの暮らし方

Kapa Foods Innovations Limited トレーニー

伊藤 響子



マンボ！（こんにちは！）

皆様、新年あけましておめでとうございます。ケニアはナイロビから新春のご挨拶を寄稿させていただきます。双日株式会社の伊藤響子です。本社の飼料部隊で約2年間勤務したのち、23年の6月からケニアの事業会社のトレーニーとしてインスタントヌードルの製造・販売に従事しております。

皆様はケニアと聞いてどんなイメージを持たれますでしょうか？

危険、遠い、サファリ、貧しい、汚い、行政の腐敗etc... みなさんそれぞれのキーワードを想起されるかと思いますが、実際に行かれたことのある方はまだまだ少ないマイナー国なのではないでしょうか。当方のケニア歴はまだ半年程度ではありますが、貴重な機会ですので当方なりにこの国をご紹介させていただければ幸いです。

【ケニアのローカルマーケット】

ケニアは東アフリカの沿岸国で一人当たりGDPが2,200USD程度の東アフリカ経済の中心地です。人口は5,400万人程度、首都ナイロビには23区程度の面積に約490万人が暮らしていると言われてます。この国の驚くべきことは、人口の約50%が20歳未満であることです。町に出れば小さい子供が走り回り、若いお母さんが働きながら背中に子供をおんぶしている姿をよく見ます。当方現在27歳ですが、自分よりも若いこの大量の世代に対して、何がウケるだろうか？何か売っていけないだろうか？と妄想するだけでワクワクします。

現地のマーケットの様子について少し書かせていただきます。ナイロビ市



マーケットの様子／屋根がなくとも立派な売店です



売店の様子／商品は所狭しと並んでいます



出向先で販売する、即席麺Nala

内であればスーパーマーケットもだいぶ増えてはきたものの、市井の人々のお買い物の約8割程度はまだまだ町の小さな売店で行われていると言われていいます。商品を広げられる場所があればそれで充分。屋根がなくとも立派な売店です。人々は有象無象の売店の中から、欲しいものが手に入る店を探し歩き、できるだけ安い店でお買い物をします。売る方も必死ですから、狭い売店内の商品レイアウトを変えてみたり、仕入値を交渉したり、必死に工夫します。仕事柄こうしたローカルマーケットに行くことがしばしばあるのですが、「いらっしゃい！あんたのところの商品、売りたいんだったらもっと無料サンプル持ってこないと駄目よ？」とか「また来たんだね？今日はディスカウントでもしてくれるの？」とか「いい商品だよね～、でももっとディスカウントしないと。」といった内容を、爽やかな笑顔とともに第一声ではっきりフィードバックされます（笑）。現地のセールスマンが教えてくれたのですが、誰に対してもとりあえずそうやって言うのが文化なんだそうです。まだまだ貧しさと隣り合わせの暮らしをしている人が多く存在する国ですが、

なんとか有利に商売しようとするこのエネルギーを直に感じると、こちらも逆に何とかして売っていきたい、という気持ちになってしまいます。時間を見つけてついついマーケットに出してしまうのが辞められないです。

【ハクナマタタ・スピリット】

皆様は「ハクナマタタ」という言葉を耳にされたことがありますでしょうか。ライオンキングの中にも登場するこの言葉は、実はケニアの公用語のスワヒリ語で「問題ない」を意味します。「ハクナ」が「not」, 「マタタ」が「問題」に相当します。ケニアではよく耳にする言葉ですが、面白いことに人々が「ハクナマタタ」と口にするときは大抵「マタタ（問題あり）」です。

例えば,

停電した → 「ハクナマタタ」

フライトキャンセルで今日は目的地に着けない → 「ハクナマタタ」

今月使えるお金がない → 「ハクナマタタ」

彼女と別れた → 「ハクナマタタ」 ..!?

「ハクナマタタ」に込められているのは「そんなことはどうにかなるよ」「気楽にいこうよ」というメッセージです。ケニアでは困っている人がいるときには、話をきいてあげて「ハクナマタタ」と言ってあげるのが一つの常套手段となっております（私の周りのケニア人たちはとても温かくて優しいです）。「マタタ」があればとりあえず「ハクナマタタ」を唱えて（実際には全く解決しないのですが）一旦物事を流してみるという処世術は、余裕をもって人生を謳歌する秘訣でもあるはずです。ケニアのほうが日本よりも楽観的な人が多いように感じており、当方からすると「流石にそれはマタタだろ」と突っ込んでしまうことも多々ありますが、一方で気付けば問題発生時に「あー、これはハクナマタタだな」と心で唱えてしまっている自分もおります。ナイロビにいと大抵のことをハクナマタタ精神で解決することを身に着けそうですので、日本に帰任した際には周囲の友人にもハクナマタタ精神を伝えていきたいと考えております。

【休日は海辺で】

もし数日の休みを取ってケニアにいらっしゃることがあれば、足を延ばして海岸沿いまで行かれることをお勧めします。当方は海辺の魅力の虜になっておりまして、ナイロビの喧噪から離れたときにフラッと海岸沿いまで旅をするのが趣味と化しています。美しい景色、程よい暑さ、浜辺で飲むビール、のんびりと流れる時間、旅先で出会う人々、美味しい海鮮、マリンスポーツ、、、アクティビティを挙げればきりが御座いません。先日はマングローブ



穏やかな海と楽しそうな人々。その景色を眺めながら、私の片手にはビールがありました。



SAPで海を探検する筆者



どこまでも広がる空と海／現在筆者は、写真中のカイトサーフィンに挑戦中です。

の中をSAP（Stand Up Paddle，安定感のあるサーフボードに乗って海上を移動します）で探検してきたのですが，自然と向き合いながら静寂の中を過ごすのは得も言われぬ爽快感でした。

なお，もう一つのおすすめは動物を見にサファリに行くことです。弊社の宇治駐在員の一昨年（『Feed Trade』2022 1-3月号）にもサファリの魅力が詰まっておりますので，お時間のある際にご参照ください。

【最後に】

この度は，僭越ながら寄稿させていただく機会をいただきありがとうございます。駄文で恐縮ではございましたが，ケニアでの暮らしを少しでもお届けできていれば幸いです。

改めまして2023年は大変お世話になりました。2024年が皆様にとってより良い年となりますこと心より祈念して，結びとさせていただきますと幸いです。

豪州便り

伊藤忠商事(株) シドニー駐在

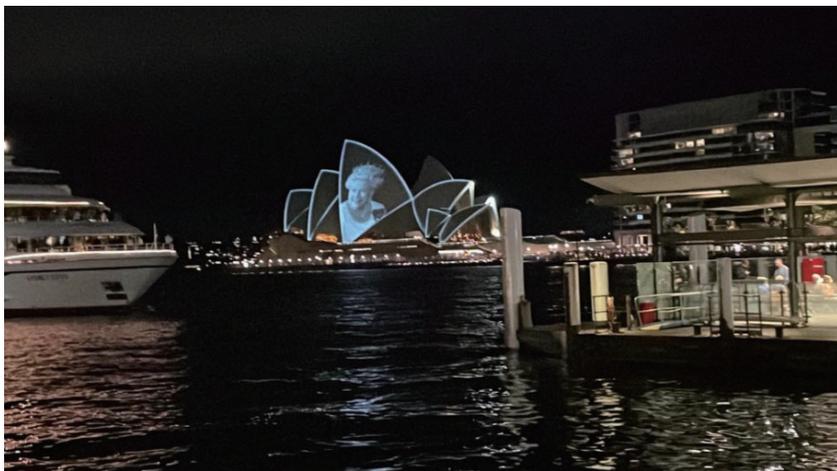
岩淵 蒼太



飼料輸出入協議会会員並びに関係者の皆様，新年明けましておめでとうございます。ITOCHU Australia Ltd.（シドニー）に駐在しております岩淵と申します。旧年中は大変お世話になりました，誠にありがとうございました。本年もよろしくお付き合いいただけますよう，お願い申し上げます。

<はじめに>

今回はオーストラリアについて簡単にご紹介させていただきます。オーストラリアの面積は日本の約20倍あり，ニューサウスウェールズ州（NSW）・ビクトリア州（VIC）・クイーンズランド州（QLD）・南オーストラリア州（SA）・西オーストラリア州（WA）・ノーザンテリトリー（NT）・タスマニア州と首都キャンベラが位置するオーストラリア首都特別区（ACT）から成



り立っています。イギリス連邦の一つであるため、22年9月にエリザベス女王がなくなった際は、オペラハウスは女王追悼のライトアップがなされ、急遽祝日が設定されるなどイギリスとの深い関係性を感じられました。

公用語はもちろん英語ですが、いわゆるオージーイングリッシュといわれる英語のアクセントはやはり独特で慣れるまでには苦労しました。(今となってはオーストラリア人の同僚に、「君が習得したのは英語じゃないよ」というジョークを言われるほどオーストラリア訛りにどっぷり浸かっている私です。)

<食文化>

オーストラリアは、人口が26百万人と日本の約1／5の人口となりますが、赴任して先ず驚いたことは食の多様性についてです。日本でも少しずつグルテンフリーやオーガニックと言った食生活スタイルが少しずつ受け入れ始めているように感じますが、当地では2大スーパー（ColesとWoolworth）に足を運べば、様々な食生活スタイルに合った商品が並んでいます。また、消費者のSDGsに対する関心には目を見張るものがあり、環境に優しい一本釣りで漁獲された原料のみを使用したツナ缶と、網で捕獲された原料を使用したツナ缶で約2倍の値差がありますが、豪州では前者の商品が多くの消費者に選ばれております。加えて、日本では食感や味により人々の関心がある一方、当地ではその製品に何が含まれているのかにより人々の関心があり、小売り商品には5段階の健康指標が記載されており、消費者は評価を見て購入しております。



またコーヒー文化が盛んで街のいたるところにカフェがあり、どこで飲んでもおいしいという素晴らしい点が挙げられます。コーヒー文化の中心である、VIC州メルボルンには約2,000店のコーヒーショップがあると言

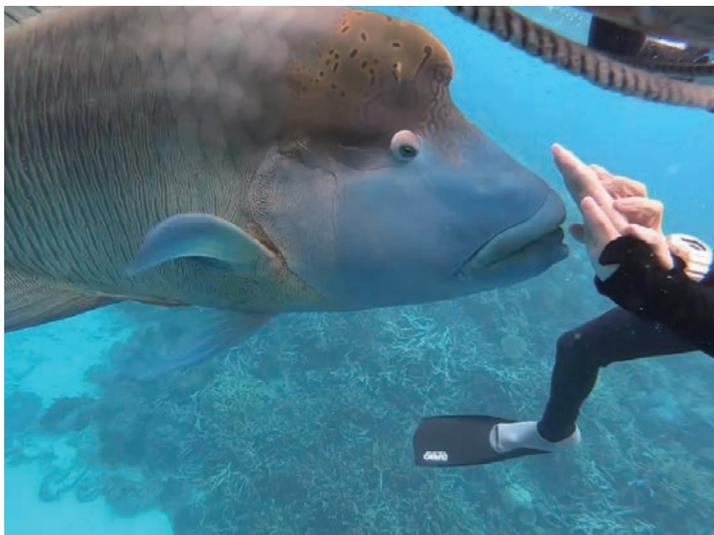


われております。写真のようにお店やブランドごとにカップの模様を楽しめる一方、環境への高い意識を持つオーストラリア人の中にはマイカップを持参する人も多く、ビジネス街ではランチ休憩後にマイマグカップ (!) を持ってコーヒーを買いに来る人も多く見られます。

<観光（自然）>

私は2022年4月より当地に駐在しこの1年半で全州踏破いたしました。それぞれの地に様々な魅力が詰まっているものの、私の一番のお気に入り、かの有名なグレートバリアリーフでのシュノーケリング体験でした。(写真はインストラクターのもとでナポレオンフィッシュに触る様子)

また、オーストラリアといえば、コアラやカンガルーを思い浮かべる方も多いかと思いますが、私が当地にきて魅了された動物がウォンバットです。カンガルーと同じ有袋類の動物で、オーストラリア全州で保護動物に指定されています。ずんぐりむっくりした体格で一見のろまそうですが、走り出すと最高時速40キロも出るそうです。オーストラリア南東部からタスマニアにか



けて生息するコモンウオンバット（ヒメウオンバット）は、日本では長野県茶臼山動物園と大阪府池田市五月山動物園で見られるようです。（写真のウオンバットはFeatherdale Wildlife Parkにて）



<観光（ワイナリー）>

オーストラリアでは、第二次世界大戦後、ブドウ栽培やワイン醸造の知識を持つフランス・イタリア・ドイツからの移民が増え、19世紀後半から本格的なワイン造りが始まったと言われております。2008年には、ペンフォールド社の「グランジ」がパーカーポイント100点を取得したことで、南オーストラリア州／バロッサバレーは世界有数のワインの産地としても知られております。

私が住むシドニーがあるニューサウスウェールズ州は、国内で2番目にワイン生産が盛んで全国生産量の3割が作られており、車で約2時間のハンターバレーには70以上のワイナリーが点在し、主にセミヨンとシラーズ、シャルドネを生産しております。

ワイナリーには販売所を兼ねたCellar Doorがあり、テイスティングエリアになっている。ワインを購入すればテイスティング代が無料になるところや、何種類ものチーズやドライフルーツ、クラッカーなどのセットとともにじっくり楽しめるところもあり、一日で幾つかのワイナリーをめぐり、テイスティングを楽しむことができます。





一般の小売店には出さず、Cellar Doorでしか買えないワインもあるので、
ついつい買いすぎてしまうことも・・・。

数ある中から自分のお気に入りのワイナリーやワインに出会える瞬間が至
福です。

<最後に>

以上、簡単ではございますが、赴任して1年半の生活の中で、印象に残った点をお話させていただきました。

オーストラリアは、飛行距離の割に、日本と時差（+2時間～△1時間）が少ないです。コロナ禍が明け、人々の往来も活発化してきており、直行便も徐々に再開しておりますので、機会があれば是非オーストラリアを訪れてみてはいかがでしょうか。最後になりますが、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

大連より新年のご挨拶

兼松 大連

中野 純平



飼料輸出入協議会会員並びに関係者の皆様、新年あけましておめでとうございます。兼松大連に赴任中の中野と申します。2020年から始まったコロナウイルスもようやく終わりの兆しが見え、また日本におかれましては5類感染症の位置づけとなり、年末年始は忘年会や新年会も多くなったのではないのでしょうか？コロナ以前の世界に戻りつつあることを喜ばしく思っております。



中国においても2022年末に中国政府によるゼロコロナ政策の転換により、2023年1-2月はリベンジ消費の傾向が感じられ、今年は徐々に人の動きが活発になりつつある中、皆様にはそんな中国の状況を簡単では御座いますが報告させていただければと存じます。

こちらの写真は（私もあまり足を運ぶことはないのですが）高級スーパーのお肉コーナーです。業務終了後に向かいましたが品揃えはよく、品切れと



なるものはほとんどありませんでした。

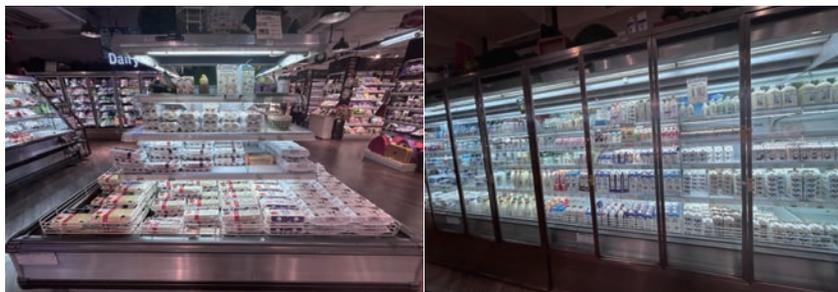
高級スーパーと言われるだけあり、簡単には買いつらいなという価格帯ではありますが、中国国内で牛肉価格が上昇したかと言われると実はそうでもありません。2023年に入り、消費は増加の一途を辿るかと思われおりましたがコロナ禍で積みあがった国内在庫数量を解消するには及ばず、中国国内の牛肉相場の上昇にはつながりませんでした。また2023年旧正月の休暇以降、



中国の景気減速が鮮明となり、中国経済の先行きの不透明感が続いております。消費動向は安価な商品にシフト、また加えて夜遅くまで外食をする頻度も減ったように感じます。コロナによる様々な規制の結果、家で過ごすことが多くなり、またそれに慣れてしまったことで私を含めた消費者の行動は完全なコロナ前には戻らず、スーパーでの人の出入りも少ないように感じます。

時間帯によるのかもしれませんが、今はわざわざ出歩かずともアプリで簡単に食材の購入ができるようになっております。コロナが与えた影響は便利ではありますが、少し寂しくも感じますね。

卵の値段は少し上がったかなという風に感じます。日本におかれましては、昨年鳥インフルエンザの影響を受け、卵がスーパーから消えたという話を伺いました。今や我々の食卓にとって欠かせない卵ですから、なくなるということは想像しづらいです。もうスーパーから消えるような状況ではないと聞いておりますが、そのような話を聞くと今まで以上に一つ一つの商品に感謝をしないといけないと感じる次第です。





大連では日本同様、温暖な気候が続き11月までは20度を超すような日々もありましたが、12月になると一変大雪が降り、大連市では学校が休校になるような状況でした。たった1カ月で+20度から-10度と30度近い温度

差がでており、また中国の南部と北部でも20~30度近い差がでる等体調管理が大変なほどです。皆様におかれましても、年末年始はお忙しい時期が続くと思いますので体調にはご自愛ください。



(弊社大連支店の裏側に路面電車の納車基地があります。せっかくなのでベストな写真を！と張り付けてました。我ながら良い出来だと思います。寒さに負けないで粘ってよかった一笑)

ブラジル最南端のポルト・アレグレから

豊田通商(株) 穀物事業部 穀物受渡G

伊良知 正太郎



飼料輸出入協議会会員並びに関係者の皆様，新年明けましておめでとうございます。ブラジルより謹んで新春のお慶びを申し上げます。

私は2023年8月より東京を離れ，現在ポルトガル語の語学研修生として，ブラジル南部のポルト・アレグレにて語学研修として赴任させていただいております。

ブラジルに来られた方も多々いらっしゃると思いますが，南部のポルト・アレグレまで足を運ばれた方は，少数派ではないかと思慮いたします。本稿を機にポルト・アレグレにもご興味を持っていただき，足を伸ばしていただければ幸いです。

◆ブラジル ポルト・アレグレについて

私の生活しているポルト・アレグレは，ブラジル最南端のリオグランデドスル州の州都であり，ウルグアイ，アルゼンチンと国境を接しています。そのため，隣国と似た文化を持ちつつもブラジルらしい文化も持ち合わせた，少し独特な文化圏であるように感じております。

人口約150万人の都市であり，市内はバスや電車などの公共機関が発達しています。周辺地域を合わせた都市圏としては，ブラジルで5番目の規模があります。旧市街地にはヨーロッパ風の建築物が残され，石畳の道路も現役で利用されています。人種構成では，ポルトガル・ドイツ・イタリアなどの白人系移民が人口の80%以上を占めているとされ，黒人系やアジア人は少数派の人口を占めます。街の名前を直訳すると「陽気な港」となり文字通り「陽気な」ヨーロッパ系移民の暮らす港街です。港街と言いつつも海には接して



グァイーバ川から見る夕日

おらず、グァイーバ川と呼ばれる巨大な河川に面しています。このグァイーバ川は、ブラジルで2番目に大きなラグーンであるパトス湖に流れ、最終的には大西洋へと接続します。

湖の近くということもあり、年間を通して多湿な地域でもあり、夏には気温が30度を超え蒸し暑くなります。一方で6～9月の冬期には、ダウンジャケットが必須になるほど冷え込みます。南国のイメージが強いブラジルですが、南部の山間部では雪が降ることもあるため冬季の服装にはご注意ください。

◆ガウーシヨ

ブラジルでは出身地域ごとに呼称があり、リオグランデス州周辺の人々のことをガウーシヨと呼んでいます。日本で言うと近畿出身者=関西人

といったところでしょうか、他にもサンパウロ周辺の人々をパウリスタ、リオデジャネイロ周辺の人々をカリオカと呼んだりします。ガウーショとは本来、牧畜を行っていた人々のことを指し、アルゼンチン・ウルグアイではガウチョとも呼ばれます。野生化し大繁殖した牛や馬を縄で捕らえ、そのお肉を食べる生活を送っていたそうです。彼らは、ガウーショという呼称に誇りを持っているように感じます。いくつかその特有の文化をご紹介しますことができます。

◆シマホーン (Chimarrão)

街を歩いていると大きな魔法瓶を脇に抱え、金属性のストローを差した木製のカップを持った人を見かけます。シマホーンと呼ばれるこのカップの中には、お茶の葉っぱが入っていて80度近いお湯で淹れたお茶をボンバと呼ばれるストローで美味しそうに飲んでいます。先住民族であるインディアンが飲んでいたものがルーツで、今にも残っている伝統的な飲み物です。熱いお茶をストローで飲むので、口の中の火傷には注意しないといけませんが、味



お茶の種類も豊富で発酵した茶葉や砂糖が入った茶葉もあります。シマホーンを飲む筆者

は日本の緑茶やほうじ茶に似て、脇に抱えるポットのお湯を注ぎ足しながら家族や友人たちと回し飲みをします。シマホーンを一緒に飲むことは友好の証でもあり、客人をもてなす時にも重宝されます。シマホーンを渡された際には、中身全てを飲み切って返すことがマナーとなります。ブラジル国内でシマホーン片手に歩いている人がいれば、ほぼ間違いなくガウーショで、暑い夏のビーチなどでもシマホーンを好んで飲むようです。ちなみにアルゼンチンなどで親しまれている、マテ茶とルーツは同じですが、呼称が異なるようです。

◆シュハスコ (Churrasco)

塩のみというシンプルな味付け、串に刺した肉の塊を炭火で焼き上げる、豪快なブラジル料理の代表とも言えるシュハスコをご存知の方も多いのではな



伝統的な服装でシュハスコを焼いているガウーショ

いでしょうか？（日本ではシュラスコとも呼ばれます）。シュハスコの起源はガウーショに親しまれていた肉料理とされています。牛を縄で捕らえ、そのお肉を食べる生活を送っていたガウーショ。キャンプの焚き火で肉を焼いて食していたものがルーツとされています。シンプルな料理であるがゆえ、肉の質・部位や塩の種類、焼き加減など強いこだわりがあり、家庭によってこだわりが異なるのも興味深いと感じています。小さなスーパーであっても精肉売場は大きく、何十種類にも及ぶ肉の塊を購入することができます。塩は粒度の大きな岩塩を使い、木の炭で焼き上げその風味を肉につけることがポイントのようです。焼き加減は、人によって好み分かれますが、マウパッサード（レア）、アオポント（ミディアムレア）、ベンパッサード（ウェルダン）など焼き加減を表すワードは覚えておきたいところです。大抵の家庭には、家の中にシュハスケイラ（専用の炉）があり、毎週のように家族や友人と食卓を囲みます。

◆週末の過ごし方

ポルト・アレグレには、ヘデンサウンと呼ばれる大きな公園があります。週末にはオーガニック食材や手芸品が軒を連ねる市場が開催され、街の人々が集う憩いの場となります。散歩やランニングなど運動する人やレジャーシートを敷いて昼寝をする人、シマホーン片手に友人や恋人と談笑する人など楽しみ方は人それぞれです。また、グァイーバ川沿いは遊歩道が整備され、バーや屋台が立ち並ぶことや週末には車道が歩行者天国になることから、ここでも週末にはこの街に住む人々がランニングやサイクリングを楽しむ姿を見ることができます。この街にはブラジル人が愛してやまないビーチがないため、公園や川沿いで日光浴を楽しむことが一般的なようです。この川沿いから見る夕日は、ガウーショの自慢スポットであり、私も時折夕日を眺めに足を運びます。あまり目立った観光地はありませんが、ゆったりとした時間を過ごすことができるところがポルト・アレグレの良い所だと感じております。



ヘデンサウンのオーガニックマーケット

◆サッカー

ブラジルで生活する人々にとって、サッカーは日常の一部であり、娯楽であり、熱狂的になれる国民のスポーツであると感じています。ブラジル全土に90を超えるチームが存在し、コパ・ド・ブラジルと呼ばれる国内カップが行われます。ポルト・アレグレを本拠地とするチームには、グレミオ（チームカラーは青色）とインターナショナル（チームカラーは赤色）の2チームがあり、それぞれのサポーターは、それぞれグレミスタ、コロラドと呼ばれます。グレミオはFIFAクラブW杯の前身でもある、1983年のトヨタカップ（世界クラブW杯）で、インターナショナルは2006年のFIFAクラブW杯で優勝したことがあります、両チームとも世界レベルで戦える名門チームです。ライバルチームである両者が直接対決する試合は、「クラシコ・グレナル」と呼ばれ、街中が熱気に満ち溢れて大いに盛り上がります。ちなみに、ポルト・アレグレ出身の有名選手には、ブラジル代表として活躍したロナウジーニョ（ブラジルではロナウジーニョ・ガウーシヨと呼ばれています）がいます。

当地で生活する上では、どちらのチームを応援するのか決める必要があります。初対面の人と会話をする、必ずどちらのチームを応援しているのかを質問されるためです。どちらのチームを選んだとしても、交友関係に悪影響はありませんが、会話が盛り上がること間違いなしです。スタジアムでの試合観戦をさせてい



グレミオの試合でのサポーターの様子

ただく機会がございましたが、会場の熱気はテレビで見るよりも凄まじく、終始圧倒されておりました。

◆おわりに

いかがでしたでしょうか？ 簡単ではございますが、当地での生活についてご紹介させていただきました。地球の反対側のさらに南部ということで、ご来訪の機会はあまりないかもしれませんが、ポルト・アレグレの雰囲気を少しでもお伝えできておりましたら幸いです。

末筆ではございますが、皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ベトナムより新年のご挨拶申し上げます

丸紅ベトナム会社

白木 友宏



飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆さま、新年明けましておめでとうございます。ベトナムより謹んで新年のお慶びを申し上げます。

歴史ある『Feed Trade』に寄稿させていただくのは、2年前の2022年1 - 3月号（通巻493号）において飼料輸出入協議会理事長として＜新春のご挨拶＞以来となります。当時はJFTA理事長として、また立場を変え現在は駐在員として、日本の飼料・畜産・酪農、またその関係者の皆様と関われることを大変嬉しく思っております。



ベトナム ホーチミンに赴任して以降、約9カ月が経過しました。まだまだベトナム通とは言えないまでも、現在の生活基盤であるベトナムをご紹介します。

正式国名はベトナム社会主義共和国。面積は約33万平方キロメートルと日本の約0.88倍。日本と同様、南北に細長く、海岸線が長い点等も親近感が湧きます。人口は2022年時点99.5百万人。当方赴任後の2023年に100百万人を突破したとの報道もあり、今後正式な統計が出るころには確実に超えているはずです。平均年齢も32.70歳（日本48.6歳）と若く、【活気溢れる】という言葉がしっくりきます。

首都は北部にあるハノイで人口は約850万人です。首都ゆえ政府関連施設が数多くあります。北部に位置していることもあり、日本と同様に四季、寒暖の変化もあります。

対して私が駐在している南部のホーチミン。人口はハノイを上回る920万人。ホーチミンの平均気温は年間28℃。夜中や明け方といった通常気温が下がる

時間帯も含むものであり、日中だけだと平均気温は30℃を超えます。年間を通じて毎日屋外プールに入ることも可能、常夏です。

私も所属しているホーチミン日本商工会議所は加盟数も1,000社を超え、商業的にも中心的なエリアです。商工会は同規模（重複登録企業もあり）のものがハノイ、もう少し小規模のものが中部ダナン エリアにも別途存在し、日本企業各社様の当地への関心の高さの一端が伺えます。

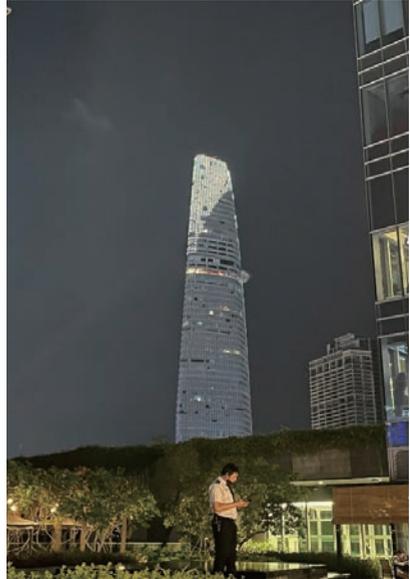


会社近く「ベトナム建国の父」ホー・チ・ミン氏銅像とホーチミン人民委員会庁舎

【ホーチミン市内の高層ビル】



ベトナム最高層461.3mのビル
ランドマーク81



Bitexco Financial Tower
高さ265.5m

ベトナムの実質GDP成長率は直近10年（2014－2023年）だけでも累計＋78.7%（2013年対比）となっており，ここ数年ホーチミン，ベトナムへ来られていない方は自身の記憶と現在の姿のギャップ，その変容ぶりに驚くと思います。

さてこれからは【ベトナムが世界一】であることに少し触れます。

①インスタントラーメン

World Instant Noodles Association 調べでは国民一人当たりのインスタントラーメン年間消費量第1位はベトナムです。一人当たりの年間消費量は約85食。つまり，約4日に1度，インスタントラーメンを食べていることになります。インスタントラーメン総需要ではベトナム84.8億食。対して日本は59.8億食。日本の人口約1.2億人として一人あたり年間消費量は約50食です。

ベトナムにはフォー（米麺）、パインカイン（タピオカ麺）、ブンボーフェ（北中部地方の省名物のピリ辛牛肉麺）、フーティエウ（南部の豚骨ベース米製麺）、など全国各地に164種類の汁麺があり、この種類の多さも世界第一位とのことです。

ベトナムへお越しの際には是非ご賞味ください。

②人口あたり、世帯あたりのバイク保有率

ベトナムといえばバイク。バイクが多過ぎて道路はいつも混んでいるというイメージです。少し古い統計ですが2020年にバイク車両登録台数は72百万台。2010年が31百万台だったので、10年で2.3倍の大幅増加。2人乗りは当然、1台で1家族4人乗っている人達もあり、私は最大で5名乗っているのを目



日常風景。自宅付近，通勤途中に赤信号で止まった車内から



自宅より市内中心部を望む夜景

撃したことがあります。(お母さんが抱っこ紐で胸に抱いている赤ちゃん1名カウント)

近年語られることの多い煽り運転問題、コンプライアンスという概念はどこかに置き忘れてきてしまったような信号無視、歩道走行、逆走等々、バイクの台数に加え、その交通事情を体験するだけでもベトナムへ来る価値があると言えるでしょう。

皆様にご関係の深い食糧／食料／食品分野においてもベトナムはコシヨウ生産量、カシューナッツ生産量なども世界一です。それに加えて主要輸出農産品としても、コメ、水産物、コーヒーなど農水系事業が多く、米、小麦、トウモロコシ等の穀物自給率は117%を誇ります。是非一度現地に来て、活気溢れる現場を体感していただきたいと思います。お待ちしております。

- ① パナマ／ガツン湖水位低下で超滞船や迂回ルートに 日本マーケットは大混乱
- ② 止まらぬ円安，一時150円台へ
- ③ 鳥インフルエンザの拡大，卵がスーパーから消える
- ④ ブラジルコーン大豊作，アメリカを抜いて最大の輸出国へ！？
- ⑤ 動きの激しいシカゴ相場，ようやく一服
- ⑥ 中国がとうもろこし輸入産地多角化。ブラジル及び南アフリカからの輸入開始。
- ⑦ 植物検疫証明書（Phytosanitary Certificate）原本提出厳格化開始
- ⑧ ペルー不漁により魚粉高騰，ぎょふんと言わんばかりの大暴騰
- ⑨ 伸びるバイオディーゼル需要。大豆ミールが溢れかえる！？今後5年の米国大豆搾油に期待。
- ⑩ 安定基金の枯渇，膨らむ借金

<番外編>

- ・ イスラエル・ハマス戦争勃発
- ・ 華麗なる勝利舞台：WBC栄冠，大谷の二刀流躍動，そして阪神タイガースが悲願の38年ぶり日本一を達成！
- ・ 藤井聡太，史上初の八冠

「愛情を品質に。」～人とペットの想いをつなぐ～

ペットライン株式会社

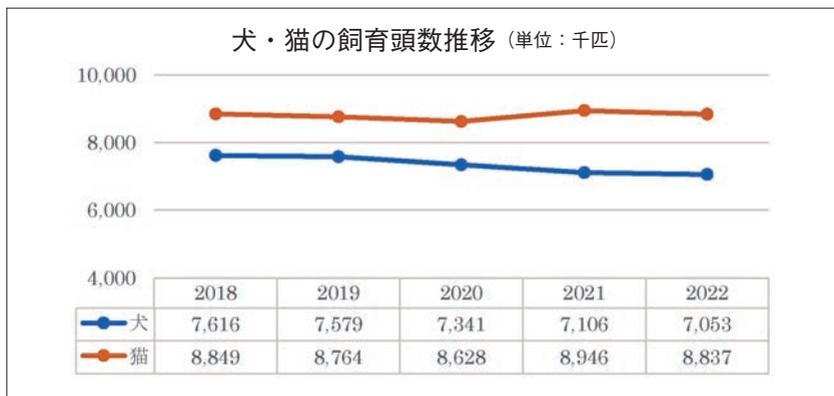


1. ペットライン(株)について

ペットライン(株)は日本農産工業(株)の100%出資により設立されたペットフードメーカーです。1967年の創業以来、国産初の猫用ドライフード「キャネットチップ」、愛犬・愛猫の健康維持を目的とした高機能フード「メディコート」「メディファス」シリーズなどペットに安心して与えていただける食事の提供を続けてまいりました。2020年4月には日清ペットフード(株)の事業を譲り受け、事業規模が大きく拡大いたしました。また、「キャラット」「JPスタイル」「懐石」といったお客様より高い支持を得ているブランドが製品展開に加わることで、多様化していく消費者ニーズへの対応がさらに強化されました。また、同年4月より動物病院向けフードである「ドクターズ ケア」「ドクターズ ダイエット」の販売事業を親会社である日本農産工業より承継いたしており、ノーサングループの有する機能を最大に活用し、総合ペットフードメーカーとして研究開発から製造・販売まで一貫して手掛けることで市場の期待に答えてまいります。

2. 犬・猫の飼育頭数について

2022年度の犬の飼育頭数は約7,053千頭と減少傾向が見られ、猫の飼育頭数は約8,837千頭で直近数年はほぼ横ばいです。ただ、新規飼育頭数は、犬は過去10年間で最多の426千頭と増加し、猫は432千頭と前年より減少しました。新規飼育意向は低下が続いていて、飼育の阻害要因として犬は生体価格の高さが年々増加傾向にあります。犬、猫共通して若年層ほど「飼育費用」や「飼



データ：一般社団法人ペットフード協会調べ

育経験がないので大変さがわからない」という傾向が高くなっています。2022年度の犬と猫の飼育頭数の計は15,890千頭ですが、この数は15歳未満の人の子供の人口である14,290千人よりも多い結果となっています。

3. ペットフード市場について

		2020年	2021年	前年比
ドッグフード	重量：トン	252,014	248,983	98.8%
	金額：百万円	146,450	145,132	99.1%
キャットフード	重量：トン	308,900	322,252	104.3%
	金額：百万円	180,093	195,221	108.4%
合計	重量：トン	560,914	571,235	101.8%
	金額：百万円	326,543	340,353	104.2%

データ：一般社団法人ペットフード協会／ペットフード産業実態調査

ドッグフード市場は前述の通り、対象となる生体の数が減少していることや小型犬の増加により2021年の出荷重量は前年比98.8%となっています。キャットフードは重量、金額ベースとも伸長しました。昨今の原材料費高騰に伴い、ドッグフード・キャットフード共に値上げ傾向が見られ、ドッグフード、キャットフードをあわせた全体市場においても金額ベースでは104%と伸長しており、ペットオーナーのフードへの支出拡大が下支えをしていると言えます。

4. ペットフードのトレンドについて

2010年以來、犬・猫共に平均寿命伸びているのに伴い、ライフステージに合わせた様々な種類の多様化も見られます。高齢用や肥満用、毛玉対策など目的または販売価格帯等により細かな分類がなされています。価格帯別では低価格帯のエコノミータイプが縮小を続け、単価の高いプレミアムタイプが引き続き、伸長しています。プレミアムタイプにもペットの健康維持や特定の悩みに特化した機能性フードやおいしさを追求しトッピングを採用したグルメタイプ、使用する素材にこだわったグレインフリー・着色料や保存料無添加など多くのタイプが存在しています。また、動物病院にて販売される療法食市場も拡大しており当社のブランドであるドクターズ ケア及びドクターズダイエットも全国の動物病院にて取扱いをさせていただいております。これらの市場トレンドは自分の家族と同様であるペットに対して、より健康に配慮されたもの、よりおいしいものを与えたいという飼い主の気持ちの高まりが背景にあり、ペットオーナーの期待に応える製品、期待以上の製品を提案することが成長持続の鍵となっています。

5. 当社製品・サービスについて

<メディコートアドバンス>

愛犬の様々なお悩み解決を目的として展開している<メディコート>シリーズが2023年春に上位シリーズの<メディコートアドバンス>として進化しました。全アイテムDHA・EPAを豊富に含むフィッシュオイルを採用し、皮膚・被毛の健康維持をサポート。それに加えて、「アレルギーカット」「尿石ケア」「グレインフリー」等、各お悩みに合わせた配慮もさらに向上しました。「腎臓の健康維持」も新たに追加されラインナップも充実しております。



<メディファスアドバンス>

発売から20年以上、愛猫の下部尿路の健康維持に特化したフードとして多くのユーザーにご愛用をいただいている機能性フード<メディファス>。その上位シリーズ<メディファスアドバンス>では、「2種の尿石ケア」「グレインフリー」「食物アレルギーケア」や「腎臓の健康維持」など様々なニーズに合わせたフードを用意しました。2023年秋には、高齢期の愛猫のハツラツとした生活を願い、「認知機能の健康維持」も新発売いたしました。



<懐石>

猫用グルメフードのブランドの懐石シリーズは2022年秋に大幅リニューアルを実施しました。和のテイストを全面に訴求した非常にインパクトのあるロゴで店頭でのアピール力も高く、商品名をわかりやすく記載しております。ドライタイプは24種類、ウェットタイプは9種類と豊富なラインナップを揃えております（2023年11月時点）。その中でもトッピングを添えた国産グレインフリーは、味へのこだわりが強く、穀類が苦手な猫向けに「お魚仕立て」「お肉仕立て」の2つの味を用意しました。トッピングとしてシラスや銘柄鶏を加えております。



<ペットラインしあわせマルシェ>



2022年よりドッグフード・キャットフードのお試しサイトをリリースしました。実際に食べてくれるか、気に入ってくれるかを正しく判断してほしいという想いから、送料無料で1商品1回限りの特別価格で試せるサイトです。購入後は使用についてのアンケートを記入していただき、購入継続状況や今後の製品開発に生かしています。

モザンビークの首都・マプト食事情

欧州三井物産マプト事務所

草間 哲也



欧州三井物産マプト事務所の草間と申します。

皆さんマプトがどこにあるかご存じでしょうか。

今から1年数カ月前にマプトへの異動の辞令が出た際には社名に欧州と入っていることもあり、「ヨーロッパに異動なんですね」と言われたりもしましたが、マプトはアフリカ南部、モザンビークの首都となる港町です。

モザンビークは、南アフリカ共和国、エスワティニ（スワジランド）、ジンバブエ、ザンビア、マラウイ、タンザニアと国境を接し、インド洋に面する



南北2,500キロメートルに及ぶ海岸線を持ち、また上記の近隣内陸国へのゲートウェイとしても重要な役割を果たしている国です。

また、天然ガス、石炭、重砂など豊富な天然資源にも恵まれており、当社が参画する北部カーボデルガド州での天然ガス開発事業（Arealプロジェクト）は、永年世界最貧国の一つとして数えられ、債務超過に苦しむこの国を変える事業として大きく期待されています。

現在の主要産業である農業は労働人口の約7割が携わり、GDPの約4分の1を稼ぎ出していますが、そのほとんどが小規模零細農家で占められ、農業の効率化が大きな課題であり、上記天然ガス事業による国家収入の農業への活用による変革が期待されています。

マプトは南緯26度に位置しており、北緯26度の沖縄県那覇市と似て、夏は暑く、冬は短い亜熱帯性気候（但し季節は正反対）で、沖縄と同様豊富な海の幸が一年を通して入手可能。また1975年の独立まではポルトガルの植民地であったことから、市内には数多くのポルトガル料理店があり、日本ではあまりお目にかかれないポルトガル料理や、ポルトガルワインがいつでも楽しめます。

他にも、イタリア料理店や欧風海鮮料理店、また旧宗主国つながりでブラジル人経営の肉系のお店もあつたりします。

アジア系は日本料理店はゼロ、韓国料理が1軒、中華はそれなりの数あれどあまりイケてる店はなく総じて不作ですが、独立時に共産主義国家であった関係から意外にも当地には大きなベトナム人コミュニティがあり、結構な頻度でベトナム料理店にお世話になっていたりします。

あまりアフリカっぽく無い気がしていますが、私のお気に入りのマプト飯を昼のメニュー中心にいくつかご紹介したいと思います。

<ポルトガル料理の昼定食の数々>

元々ポルトガルの植民地であったことからモザンビークには今でもポルトガル系住民による料理店が数多くあり、海の幸・山の幸の様々なポルトガル

料理の日替わりランチが楽しめます。



<海鮮系>

エビ・カニは定番メニュー。写真はありますが一年を通して様々な魚が上がるので、新鮮な魚料理もいいです。日本ではあまり見かけないヴィーニョヴェルデ（アルコール度数低めで弱発泡性のポルトガルワイン）ともよく合います。右のスープっぽい写真はポルトガル料理のカタブラーナで、私のFavoriteの一つです。



<レベルの高いパスタメニュー>

マプトはイタリア移民のコミュニティもあり、昼飯時に気軽にハイレベルなパスタを食べに行けるイタリア料理店も数多く存在します。メニューも豊富で食べ飽きません。



<ベトナム料理>

こちらはちょっと飲みすぎた翌日の昼飯に最適なベトナム飯です。



<地元飯>

おかずを選んでコメもしくはシーマ（トウモロコシの粉を練ったパンのようなもの。東部アフリカではウガリとして知られる）と一緒に盛ってもらい食べます。



<一説には世界一おいしいらしいモザンビークのコカ・コーラとKFC>

他国とは違っておいしい気がします。



兼松株式会社

我が社の副原料担当者3名のご紹介

兼松(株) 穀物飼料部 副原料課

山本 大智



◆ 岩田 望 (いわた のぞむ)

兼松株式会社の岩田望と申します。2020年入社で現在は主に魚粉／魚油の商売・受渡業務を担当しております。

飼料業界・水産業界は会社に入社してから初めて携わらせていただいております。未だに日々勉強させていただくことが多く刺激の多い毎日を送らせてもらっております。一日でも早く業界のために貢献できる人間になれるよう精進しておりますのでよろしくお願い申し上げます。



私は野球観戦が好きで、名古屋生まれの両親の影響で特に名古屋のプロ野球チームを応援しております。私が小さい頃は常勝球団としてきらびやかな活躍をしていた球団でしたが、今では見る影もなく、2年連続最下位という不名誉な記録まで樹立してしまっている始末でございます。しかし、ダメな子供ほどかわいいもので、弱いときほどどうすれば強くなるかを真剣に考えたり、今が底でここからは上がるしかないと常に前向き

に考えを巡らせることができるため、日々妄想が充実しております。

この業界の仕事も同様だと感じておりまして、自分が常に弱い立場だと理解し、どうすればお取引先の皆様に貢献できるかを常に考えて行動していくことが大切だと、某球団を通じて痛感しております。常勝人生になれるよう業界のために注力を注ぎ込む所存ですので今後ともよろしく願いいたします。

◆川田 翼（かわだ つばさ）

兼松株式会社の川田翼と申します。2021年に入社してから副原料、主に大豆ミールと菜種ミールのデリバリー業務を担当しております。

入社してから様々な事を経験させてもらいながら、日々変化する状況を死ぬ物狂いで生きております。今後も飼料業界を支えるために尽力していく所存でございます。



簡単ではありますが自己紹介をさせていただきます。生まれは名古屋，小学生時代に2年間アメリカで育ち，大学時代までは関西で過ごしておりました。社会人になり上京した私は関東圏での友人は少なく，新たな趣味を作ろうと考え，衝動的に中型バイクを購入しました。

さぞ楽しいツーリング生活が待っていると思っていた最中，購入して1カ月も経たないうちに，右車線から割り込んできた車を避けるために急ブレーキをかけて転倒。バイクと僕の手首に大きな傷を残しました。当初夢見ていた女性を後ろに乗せてツーリングという夢は叶わず，傷の残ったバイクは虚しくも売れず，駐輪代という負債を乗せて日々生活を送っております。

そんな私の今の生きがいは，サウナです。コロナ禍にサウナブームが到来したかと思いますが，それ以前からサ活（サウナ活動）に励んでおります。不必要な水分を体外へ排出して，綺麗な水分を体に入れなおす，この自分自身がクリーニングされる過程は自己肯定感の向上に繋がっています。また，仕事やプライベートにおけるトラブルや悩み事等が生まれた際に，水風呂後の外気浴を通じて，ぱっと解決策が閃くことがあり，今でも辞められません。これ以上サ活の良さを話してしまうと，サウナの混雑化に繋がる可能性があるかと存じますので，この辺でストップさせていただきます。

最後になりますが，コロナが落ち着いてきたことで皆様とお会いさせていただく機会が増えたかと思えます。いつもお世話になっている方々に恩返しができるよう，引き続き頑張っまいりますので，今後ともよろしく願いいたします。

※実は一度新人紹介で掲載いただいたことがありまして，多方面から“白色に髪染めていたのか!?”と言われることがあります。この場をお借りして訂正させていただきました。髪を染めたことは一度もありません。



川田 翼 (かわだ つばさ)
穀物飼料部 副原料課

◆近藤 光 (こんどう ひかる)

皆さまはじめまして。兼松の近藤と申します。

2023年4月よりキャリア採用で入社し、現在に至るまで魚粉の商売を担当しております。担当になりまもなく、ペルーアンチョビ漁が止まってしまう異常事態もありましたが、日々同僚やお客様、業界関係者の皆様にサポートいただき、早いもので8カ月経過しました。

魚粉のことならば兼松の近藤に聞こうと思われるような存在になるべく、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。

兼松へ入社する前までは、新卒から5年間水産会社に勤務し、イカ加工品と原料の製造・調達を担当しておりました。回転寿司向けの寿司ネタや、量販店やファミレス向けの惣菜品等が主たる商品で、コロナ禍含め日本と中国を行き来するような日々を送っていました。製造工場にも足を運ぶことはもちろんのこと、事務所やプライベートでもイカを食べて、見て、触ってきました。今でもふとイカを見つけると、少し嬉しくなりつい規格を確認してしまう癖が出ております。(笑)

趣味は食べる(サラダ、パン、魚)、ポイント集め、MLB観戦、旅行等色々ありますが、中でもアメリカ旅行は久しぶりに行きたいと計画中です。アリゾナ、フロリダは特に好きな地域で、週末は実現するか分からない旅行計画を立てて過ごしています。(笑)

どうぞ今後ともよろしくお願いたします。





「新春賀詞交礼会」4年ぶりに平常開催

新年恒例の飼料輸出入協議会主催「新春賀詞交礼会」が、1月5日(金)12時から1時30分まで東京・千代田区丸の内3丁目の東京會館3階ローズの間で開催されました。今回の交礼会は元日に発生した能登半島地震、また翌2日に羽田空港で起きた日本航空と海上保安庁の航空機衝突炎上事故等の影響による出席者の減少も心配されましたが、コロナ禍が明けて4年ぶりの飲食を伴う平常開催とあって、会場には受付開始早々から飼料畜産業界はじめ、官庁、外国公館など、総勢720余名の方々にご来場いただきました。ご参加並びにご協力いただいた皆様に御礼を申し上げます。



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



第55回 (2023年) FEED TRADE アンケート当選者発表

今回もホールインワン賞は該当者なし

《設問と正解》

第1問 2023年7月3日(月)の米国産トウモロコシのシカゴ定期
12月限の引け値はいくらでしょうか。

正解 493.50セント

第2問 2023年10月2日(月)の米国産トウモロコシシカゴ定期
12月限の引け値はいくらでしょうか。

正解 488.75セント

第3問 2023年10月度のUSDA需給報告における2023/24クロープ
米国産トウモロコシの生産高はいくらでしょうか。

正解 15,064百万ブッシェル

第4問 2023年12月1日(金)現在の対米ドル換算率レート
(三菱UFJ銀行TTS) はいくらでしょうか。

正解 148.88銭

各賞は、以下の皆様に決まりました(敬称略)。

第1問	ホールインワン賞	なし			
	ニアピン賞	小野 潤	昭和産業(株)	505.00	
		田中 彰	(株)朋裕アトラス	505.00	
第2問	ホールインワン賞	なし			
	ニアピン賞	渡辺 温男	貿易通信社	491.50	
	残念賞	小野 潤	昭和産業(株)	495.00	
第3問	ホールインワン賞	なし			
	ニアピン賞	河津 俊作	伊藤忠商事(株)	15,100	
		山本 大智	兼松(株)	15,100	
		遠藤 克哉	三菱商事(株)	15,100	

第4問	ホールインワン賞	なし			
	ニアピン賞	平野	博康	(株)朋裕アトラス	148.50
	残念賞	村林	雄二	(有)飼料通信社	150.50

第56回 (2024年) Feed Trade アンケートのご案内

恒例のFeed Tradeアンケートを下記により募集いたします。奮ってご応募ください。

飼料輸出入協議会
『Feed Trade』編集委員会

【設問】

- 第1問 2024年7月1日(月)の米国産トウモロコシのシカゴ定期
12月限の引け値はいくらでしょうか。
(セント/ブッシェル)
- 第2問 2024年10月1日(火)の米国産トウモロコシのシカゴ定期
12月限の引け値はいくらでしょうか。
(セント/ブッシェル)
- 第3問 2024年10月度のUSDA需給報告における2024/25クロップ
米国産トウモロコシの生産高はいくらでしょうか。
(百万ブッシェル)
- 第4問 2024年12月2日(月)現在の対米ドル換算率レート
(三菱UFJ銀行TTS)はいくらでしょうか。
(円/US\$)

それぞれの質問につきびつたりの数値だった方にホールインワン賞、最近似値を出された方にニアピン賞、次点の方に残念賞を差し上げます(上位者が2名以上の場合、残念賞は割愛いたします)。

なお、ご回答は2月16日(金)までに下記あて、FAXまたはE-mailにてお願いいたします。

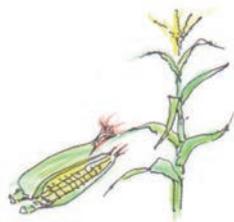
飼料輸出入協議会
電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551
E-Mail: jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp (宮本宛)

New Balance

< 16 >

岩崎食料・農業研究所 所長

岩崎 正典



「南米産地からの影響が強まる世界のトウモロコシ市場」

1. 米国ドルの一人勝ち商状の中で、北米の収穫作業が始まった

今年の秋は好天に恵まれて、米国中西部の収穫作業が順調に進展する一方で、国際社会ではウクライナ軍による反転攻勢が強まると、その報復としてロシア軍によるウクライナの穀物輸出施設と、生活インフラに対する攻撃が激化した。世界経済は米国の一人勝ち傾向が更に強まり、米国債の利回りが16年振りの高水準に上昇し、原油価格が年初来高値を更新したことで、米国ドルが独歩高となって、ユーロや円がそれぞれの節目に下押された。

シカゴの穀物市場は北半球の収穫期、南半球は新穀の播種前とあって、新規の材料が見当たらず、中西部の収穫進捗待ちの雰囲気が広まった。5ドルを割り込んだトウモロコシに値頃感が生まれ、メキシコ向けの大量成約が浮上して下げ渋りを見せたが、大豆はブラジルの乾燥気候が懸念されて比較高値を維持した。そして小麦は、黒海沿岸地域的小麦がエジプト向けに安価で成約されたことが圧迫材料になる中、9月末に米国農務省から発表された四半期在庫報告が、市場予想と異なる引き締めりで発表された。

一方、ミシシッピ川の低水位問題は、新穀トウモロコシや大豆の出回り期を迎えて、ガルフ向け流通の一大隘路になった。このことはリバーターミナル段階が満杯状態になって、追加の受け入れができなくなる恐れから、産地の現物ベースが大幅な下落となった。ガルフへの物流に頼ることの少ない、

メキシコ向けに166万1,607トンの大口輸出成約が発表され、メキシコ向けとして最大の成約高になった。ところが、中国はブラジル産トウモロコシを買付した後は、ウクライナ産を11-12月積で確保し、米国産の買付は後回しになった。

2. 予想外に、少なかったトウモロコシの四半期在庫

10月度の需給報告は、今回確定した9月1日時点の全米穀物在庫が新穀年度（2023/24年度）の期首在庫になって、供給側の数字が作られた。一方、同じ数字が旧穀年度（2022/23年度）の期末在庫になって、消費動向の見直しが行われ、その結果が新穀年度の需給見通しに反映される形の修正が行われた。言い換えると、四半期在庫報告が天候相場から需給相場への転換を促したことになる。

＝四半期在庫報告＝（単位：100万ブッシェル）

	9月1日	9月度需給予測	6月1日	前年同期	変化
トウモロコシ	1,361	1,452	4,106	1,377	▲16

トウモロコシの四半期在庫は、前年同期比で16百万ブッシェル（1.2%）の低下になって、市場予想の1,429百万ブッシェルや、9月予測の1,452百万ブッシェルを大きく下回った。農場在庫は、605百万ブッシェルと前年同期より19%の増加、農場外在庫は756百万ブッシェルと前年同期比13%の減少となり、6-8月期の消費も2,746百万ブッシェルと前年同期の2,972百万ブッシェルから226百万ブッシェル（7.6%）の減退になった。なお、今回の調査の結果、前年度の生産統計に修正が行われて、生産高は13,714.6百万ブッシェルにと15百万ブッシェルの下方修正になった。収穫面積が79.1百万エーカーに引き下げられる一方、単収は173.4ブッシェルに引き上げられた。

この直後に、米国農務省は8月のエタノール用途のトウモロコシ消費実績を442.6百万ブッシェルと7月から12.6百万ブッシェル（2.8%）の減少とし、前年同期より12.0百万ブッシェル（2.8%）の増加で発表した。エタノール用途での年間消費累計は5,177百万ブッシェルになり、米国農務省の年間予測

5,195百万ブッシェルに18百万ブッシェルの未達になった。一昨年の消費実績は5,327百万ブッシェルで、新穀年度は5,300百万ブッシェルと大幅な増加を予測している。

3. 10月度は意外な形でトウモロコシの作柄見通しが下方修正された

10月度の需給報告は、単収見通しが予想以上に下方修正されたことで、生育後期の天候が、トウモロコシや大豆の単収の潜在能力を損なった可能性が示されたとして、最終の生産高推定に向けて、更なる下方修正に備えが必要との見方が浮上した。

＝10月度の需給報告＝

今月の需給報告は、米国で収穫作業が3割強に進んだトウモロコシ、4割を超えた大豆の作柄の見直しと、9月1日時点の全米在庫に基づいた需要項目の見直しと盛り沢山の修正が行われることになった。

a. 生産高予測

	今月推定	事前予想	9月予測	前年実績	前年比
トウモロコシ	15,064	15,121	15,134	13,715	+1,349 (9.8%)

単収見通しが前月より0.8ブッシェル低い173.0ブッシェルに引き下げられたことで、生産高は前月予測より70百万ブッシェルの減少になったが、前年比では1,349百万ブッシェル（9.8%）の大増産見通しが維持された。作況評価通りの、西低・東高の単収予測になった。主要産地では単位面積当たりのイヤーコーン（穂実）の数が過去最高になり、東側の主産地オハイオやインディアナは過去最高の単収見通しになったが、全米平均の単収見通しは昨年の最終単収を0.4ブッシェル下回っている。

b. 国内需給（期末予測、農家価格、単位：100万ブッシェル、セント）

期末在庫	今月推定	事前予想	9月予測	前年実績	前年比
	2,111	2,138	2,221	1,361	+750
農家価格	今月予測		9月予測	前年実績	前年比
	495		490	654	▲159

旧穀年度の期末在庫が、四半期在庫（9月1日時点）に合わせて、1,361百万ブッシェルに修正された。また、昨年度の生産統計に修正が入り、生産高がこれまでよりも15百万ブッシェル少ない13,715百万ブッシェルに訂正された。需要側は飼料用途が124百万ブッシェル多い5,549百万ブッシェルに引き上げられたが、産業用途などの消費はエタノールが18百万ブッシェル少ない5,177百万ブッシェルに下方修正されるなど、合計で46百万減少の6,559百万ブッシェルに引き下げられた。差し引き、国内消費は78百万ブッシェル増の12,108百万ブッシェルで確定した。輸出需要は4百万ブッシェルの引き下げで、1,661百万ブッシェルに下方修正されて、大減産の2012年度以降での最低になった。供給の減少17百万ブッシェルと需要の増加74百万ブッシェルの結果、期末在庫は91百万ブッシェル減少、対消費在庫率は10.6%から9.9%に低下したが、農家価格は654セントに微調整された。

新穀年度は、生産高が70百万ブッシェル下方修正された上に、期首在庫が91百万ブッシェル減少したことから、総供給量は前月予測より160百万ブッシェル少ない16,451百万ブッシェルに改訂された。需要側は、飼料用途で25百万ブッシェル少ない5,600百万ブッシェルの修正があったが、エタノール用途は5,300百万ブッシェルで据え置きとなり、産業用途全体も6,715百万ブッシェルで変更はなかった。輸出需要は25百万ブッシェルの引き下げで2,025百万ブッシェルとなり、総需要量は前月より50百万ブッシェル少ない14,340百万ブッシェルに下方修正された。期末在庫は前月予測より110百万ブッシェル少ない、2,111百万ブッシェルになった。対消費在庫率は前月の15.4%から14.7%に低下見込みとなり、農家価格予測は前月より5セント上昇して495セントに改訂された。

c. 国際需給（単位：万トン）

	10月予測	9月予測	前年度推定	前年比
生産高	121,447	121,429	115,499	+5,948
総消費量	120,020	119,977	116,741	+3,279
貿易量	19,625	19,619	18,101	+1,524
期末在庫	31,240	31,399	29,813	+1,427

トウモロコシは、米国の作柄見込みが177万トン悪化したが、アルゼンチンの見通しが100万トン多い5,500万トンに増加したほか、欧州の作柄予測が30万トン好転したことなどで相殺された。中国の農業部がトウモロコシの生産高を288.23百万トン、輸入見通しを17.5百万トンと発表したとの報道が流れたが、米国農務省は生産高を277百万トン、輸入を23百万トンと見込んでいる。中国側の増産による輸入の必要性の低下予測が正しければ、先行きトウモロコシ需給の緩和材料になる。一方、エルニーニョ現象の下で、9月後半から播種が始まった南米産地の作柄見通しは下記の通りになった。(単位は万トン)

	今年度作柄／輸出	前年度作柄／輸出	相違
アルゼンチン	5,500 / 4,100	3,400 / 2,300	+2,100 / 1,800
ブラジル	12,900 / 5,500	13,700 / 5,700	▲800 / ▲200

アルゼンチンには、生育環境の大幅な回復が想定されているが、ブラジルの作柄は、農家が大豆の栽培を最優先するとの見通しから、播種面積の伸びが止まると想定されている。また、アルゼンチンは10月22日に大統領選挙を控えて、インフレが亢進してペソ安が止まらなくなり、候補者の経済政策に注目が集まっている。

4. 順調な収穫進捗の報告と米国ドル高から、トウモロコシは底値鍛錬が続いた

9月後半は中西部の収穫情報よりも、米国議会がつなぎ予算を成立させることが出来なければ、米国の政府機関が10月から業務停止に追い込まれる事態に市場の関心が集まった。9月末ギリギリのタイミングで45日間のつなぎ予算が成立したが、その代償はマッカーシー下院議長の解任決議に発展した。共和党強硬派にとって、バイデン政権との安易な妥協は許せないことになり、前代未聞の下院議長不在になったことで、米国の立法院が機能不全に陥った。10月半ばになっても新議長の選出に手間取り、議会の承認が必要なウクライナへの支援や、新農業法案作成を始めとする重要案件が、一步も前に進まない事態が出現した。

コーンベルトの西側を中心とする高温乾燥型の天気は収穫作業の進展を促す一方、ミシシッピ川下流の水位を歴史的な低水準に引き下げたことで、舢舨（ないしはバージ）運賃が高騰した。米国ドル高と重なり、米国産穀物が国際市場での競争力を失い、輸出成約高の停滞をもたらした。また、舢舨（ないしはバージ）運賃の高騰が産地の現物ベースを低下させたことで、農家の安値抵抗が強まった。10月後半になると収穫が進んでも、「豊作に売りなし」が顕著になったが、現物需要の減退が災いしてハシケ運賃が下落に転じた。

為替市場では、米国ドル指数が昨年11月以来の高水準に押し上げられ、ユーロが昨年末以来の安値になり、ロシア・ルーブルの減価が進むなど、米国産品の輸出競争力を阻害した。こうした環境の中、シカゴのトウモロコシ定期は470-490セントの極めて狭い範囲での値動きに終始する、底値鍛錬の期間が続いた。作柄予想の専門家から、9月からの高温乾燥型の天気が災いして、作柄見通しの小幅な下方修正が示されたが、収穫が進む産地からの収穫前の予想よりも手応えが良いとの報告で打ち消されることになった。

米国農務省がトウモロコシや大豆の作柄見通しを、市場の事前予測より一歩踏み込んで下方修正したことで、需給報告の後には、市場が新穀需給の引き締まりを強材料と判断した。トウモロコシや小麦、そして大豆ミールは、すでに今季の安値を見たとの判断で、産地コンサルタントが冬場の到来を前に、顧客（主として地場の畜産業者）に対して、より期先へと現物手当を進めるように忠告するようになった。

ところが、新たな地政学的リスクに対処する必要性が浮上して来た。原油の供給減退懸念には波及していないが、イスラエルのガザ地区に対する強硬姿勢が、国際社会の分断を促すのであれば、ウクライナ戦争に続いて、経済のブロック化や、実物商品のデカップリングのリスクを秘めているとして、商品市場に向けての悪影響の連鎖が懸念された。

イスラエルとハマス（パレスチナの武装組織）との衝突は、1973年の第4次中東戦争を思い出させ、産油国が団結して原油の生産制限・輸出規制で対抗した過去事例の連想が、原油価格を90ドル台に押し上げると、穀物市場で

はトウモロコシが5ドル台、小麦が6ドル台に上昇した。しかし、農家がそうした高値を見逃すことはなく、トウモロコシは収穫プレッシャーの強まりに下押される展開になった。

冬の需要期を控えて、国内外の飼料業界から大豆ミールの需要が急増したことが支援材料になり、南米の端境期に向かって現物需給の引き締め懸念が、シカゴ定期全体に下げ渋り感をもたらした。新穀冬小麦の作況評価の改善が小麦への圧迫要因になったが、11月初頭のFOMCで米国の政策金利が2会合続けて据え置かれ、鈍化の感じ取れる雇用統計と重なり、急速に米国金利の天井感が広まった。5%を超える高金利に支えられた米国ドル高が頭打ちになると、株式市場へと資金の移動が始まった。商品市場では、金先物が2,000ドルの大打に挑戦したが、原油相場は高金利がもたらした経済活動の減速による消費減退予測が災いして80ドルの節目に後退したことで、穀物市場への波及は限定的であった。

パレスチナとウクライナと、二つ戦争がメディア報道を賑わせる一方、金融市場にFRBが利上げサイクルを終了したとの推測が広まると、市場は株高／原油安の傾向が強まった。大豆には中国や仕向け地不明への大口輸出成約が続くようになったが、トウモロコシは隣国メキシコ向けの成約にとどまり、他の常連輸入国は通常の調達ペースを守った。米国農務省の11月度需給報告に向けて、大豆は南米産地の天候不順が懸念されて高止まりしたが、小麦やトウモロコシは需要側に力強さが感じ取れずに、底値鍛錬が続いた。そして11月度の需給報告が、思い掛けない単収見通しの引き上げを示し、トウモロコシを先頭に需給の緩和見通しが示されたが、市場の関心は南米産地の大豆の播種作業の遅延や再播種の可能性に向かい、トウモロコシ安／大豆高がより一層鮮明になった。

5. 史上最高の生産高予測で、需給の緩和感が強まった11月度の需給報告

11月度は、中西部の収穫作業が終盤に移った段階での作柄調査となったが、今回も米国農務省からの発表は市場参加者を驚かせることになった。中でも

トウモロコシの作柄見通しが市場の予想を超える史上最高になったことから、トウモロコシは安値の更新に追い込まれ、2021年9月以来の価格水準に戻された。

a. 生産高予測（単位は、100万ブッシェル）

	今月推定	事前予想	前月予測	前年実績	前年比	前月比
トウモロコシ	15,234	15,079	15,064	13,730	+1,504	+170
大豆	4,129	4,103	4,104	4,276	▲147	+25

コーンベルト東側の単収が過去最高と見込まれて、作柄推定が引き上げられた。トウモロコシの生産高は、事前予想は15百万ブッシェルの増加であったが、170百万ブッシェルの引き上げになった。米国農務省は全米平均単収見込みを、前月より1.9ブッシェル多い174.9ブッシェル・エーカーに引き上げた。イリノイの203ブッシェルを始め、アイオワが200、インディアナが200、オハイオが195、ミネソタが181と見込まれる一方で、ネブラスカは173、サウスダコタが152、ミズリーが147、カンザスが121と、西側の低単収が目立った。

b. 国内需給（期末予測、農家価格、単位は100万ブッシェル、セント）

トウモロコシ	今月推定	事前予想	10月予測	前年実績	前年比	前月比
期末在庫	2,156	2,131	2,111	1,361	+795	+45
農家価格	485		495	654	▲169	▲10

トウモロコシの期末在庫見通しは、前月予測より45百万ブッシェル増加し、市場の事前予想より25百万ブッシェル多くなった。作柄見通しの好転による供給の増加170百万ブッシェルに対応して、需要見通しも125百万ブッシェル増加した。飼料用途で50百万ブッシェル増の5,650百万ブッシェル、エタノール用途は25百万ブッシェル増加の5,325百万ブッシェルになったほか、輸出需要も50百万ブッシェル増の2,075百万ブッシェルに引き上げられた。期末の対消費在庫率は14.9%に回復が見込まれて、農家価格は10セント低い485セントに下方修正された。前年比10%の増産と過去最高の作柄見通しになり、前年実績の654セントから169セント（25.8%）の下落が見込まれた。

c. 国際需給（単位：万トン）

トウモロコシ	今月予測	10月予測	前年度推定	前年比	前月比
生産高	122,079	121,447	115,708	+6,371	+632
総消費量	120,503	120,020	116,820	+3,683	+483
貿易量	19,962	19,625	18,094	+1,868	+337
期末在庫	31,499	31,240	29,922	+1,577	+259

トウモロコシは、米国の作柄見通しが432万トン好転したことが寄与して、世界全体の作柄見通しも前月より632万トン引き上げられ、前年比で5.5%の増産が見込まれた。播種作業が始まったばかりの南米産地の作柄見通しは、アルゼンチンは5,500万トンと、前年の凶作3,400万トンから2,100万トンの回復見通しに変更はなかった。また、ブラジルは、面積が伸びないとの見方で、前年比800万トンの減産で1億2,900万トンの予測で据え置かれた。米国の他に作柄推定が引き上げられたのは、ウクライナで150万トン増の2,950万トン、ロシアで140万トン増の1,600万トン等で、メキシコやエジプトなどでの降雨不足による減産が吸収された。中国の生産高は2億7,700万トンと見込まれ、前年比微減が予想されて、輸入見通しは前年度の1,871万トンから2,300万トンに増加が見込まれている。中国は、今年から世界最大の輸出国になったブラジル産の輸入を開始するなど、輸入先の多角化を図っているが、旧来のウクライナ産を含めて、新穀年度は何処からの調達になるのかが注目されている。

6. 需要が停滞する中、南米産地の天気情報に神経質な展開に続く

北米産地では、秋雨前線や冬の嵐が終盤を迎えた収穫作業を中断させるようになる反面、大平原南部での降雨が、冬小麦については前年比で作況評価が大幅な改善をもたらし弱材料になった。ところが、半年遅れで播種作業の進む南米産地では、ブラジルの南部は降雨に恵まれ、アルゼンチンでは農耕地帯の降雨は散発的であったが、今後は降水確率が高まるとの予報が示された。高温乾燥気味であったブラジル中西部は翌週から降水確率が上昇すると予報されるが、ブラジル南部は水分過多の状態が続く見通しで、洪水の可能

性が指摘された。南米の作柄予測の専門家からは、ブラジルで2期作トウモロコシの面積が減少する可能性が強まり、大豆の播種が遅れて再播種が必要になれば、大豆の収穫が後ズレすることで、後作のトウモロコシの栽培面積に影響が出る可能性が指摘された。

11月前半のブラジルの天気は、相変わらず中西部から北東部の一帯で、向こう10日間は高温乾燥気候が継続すると予報される等、大豆の初期生育期にストレスが強まることが心配された。ブラジル南部と隣接するアルゼンチン北部やウルグアイ一帯は降雨が続いたことで、局地的な洪水が発生した。南米作柄予測の専門家は、「ブラジル中西部では多くの農家が大豆播種と初期生育に必要な降雨を待っている段階になるが、栽培予定面積の内5%以上は再播種が必要になった」との見解を示した。米国の気候予測センター（CPC）によると、来年1-3月期に現在のエルニーニョ現象が現状を保つ確率が55%、現状より一段と勢いを強める確率が35%として、翌4-6月期まで継続する可能性は62%とした。

大豆の輸出については、大口成約が続く。11月3日からの1週間で約300万トンが中国及び仕向け地不明の成約として報告された。市場では習近平主席の訪米の手土産と憶測されたが、この旺盛な米国産大豆への需要と、南米産地で大豆の播種作業のちぐはぐな進展と天候不安が、大豆の独歩高をもたらした。ところが、トウモロコシや小麦は、国内需要は安定的に推移しているが、輸出需要が弱く、輸出エレベーターが大豆の輸出取扱いを優先しているため、物理的に取り扱う余裕のないことも手伝って、輸出市場の停滞が圧迫材料になった。因みに、CFTCの取組明細を見ると、この4週間で大手投機筋は、トウモロコシの売持高を65,818枚増加させたが、大豆は買持高を74,950枚増加させた。こうした大手投機筋の取組方針も、トウモロコシ安/大豆高の一因とされた。

7. 12月の需給報告に向けて、外部市場では急速な米国ドル安/株高商況が出現

11月下旬の感謝祭休日を挟んでの1カ月間は、米国債利回りの急速な低下

が嫌気されて、投機資金が株式市場に還流したが、米国穀倉地帯が冬の休眠期を迎えたことで、シカゴ定期には大豆を先頭に手仕舞い色が強まった。この間は、大豆の下落に対して小麦の反発に特徴付けられるが、トウモロコシはその両者に挟まれて、小麦の反騰に追随したが5ドルの節目を越せず、一方大手投機筋が大きな売持高を維持したことで、底値鍛錬も脱出できなかった。

トウモロコシについては、11月度の需給報告が史上最高の作柄と推定したことが弱材料になって、2021年秋以来の安値圏に下押されたが、大豆は南米産地の天候不順が懸念される中、11月中旬に開催される米中首脳会談を前にして、中国が米国産大豆の調達を進めたことから、14ドルの節目に挑戦する展開を見せた。トウモロコシも大豆に追随して5ドルに挑戦したが、産地報告が、「豊作の年は後追いで作柄が大きくなる」手応えを報じたことで上げ足が鈍った。大豆は、ブラジル南部産地の降雨過多に対して、中西部から北東部一帯の高温乾燥気候が大豆の播種作業を遅らせたことで、アルゼンチンの乾燥気候ともども大豆への支援材料になった。

一方、大平原の冬小麦産地の土壌水分が回復したことで、前年比で大幅に作況評価が改善する中で、冬小麦は休眠期に移行することになった。この新穀への安堵感から小麦は約定安値を更新したが、12月になると外部市場の米国ドル安、東豪州の大雨による品質劣化、更にはフランスで長雨による播種面積の縮小懸念等、急速に当面の底値を付けたとの感触が小麦定期に広まった。そのタイミングで、中国が久しぶりに米国産小麦を112万トン買い付けたことで、小麦の反転上昇がトウモロコシへの支援材料になった。

大豆には、アルゼンチンの天気回復に続いて、ブラジルでも天気予報に降水確率の改善が示されるようになったが、大豆の播種が遅れることで後作になる2期作トウモロコシの播種期間を狭めるとの懸念が、トウモロコシ相場の支援材料になった。

トウモロコシの最終作柄進捗は、11月26日時点で全米の収穫作業が96%の完了と報告された。前年同期の99%より3ptの遅れになったが、平年より

1 pt 早い進捗であった。ミシガンの79%（平年は83%）、ウイスコンシンの85%（85%）、オハイオの86%（89%）と収穫が遅れて、東部産地から降雨過多で起こりやすい赤カビ菌の発生が報告された。主要生産州18州の内、14州が概ね収穫の完了に到達した。なお、米国農務省から、新穀年度の作柄進捗報告は、来年4月1日からの開始予定が示された。

例年、12月度の需給報告は米国の作柄推定を伴わないために、特記事項を探すのに苦勞する報告であったので、今回も大きな内容の修正は期待されていなかった。休日シーズンを迎えて需給が小康状態になったことで、シカゴ定期には南米産地の天気情報と外部市場からの影響が強まった。

8. 予想通りの微調整で終わった12月度の需給報告

今月の需給報告は、市場の関心が国際需給、中でも南米産地の作柄予測に向かった。ブラジルの作柄見通しは、これまでの天候不順により、2期作トウモロコシの播種面積の減少による下方修正の可能性が語られていたが、米国農務省はブラジル大豆の作柄見通しを200万トン引き下げたのみで、トウモロコシは据え置いた。その代わりに、トウモロコシはウクライナとロシアで各100万トンの増産を認めたことで、世界の期末在庫は減少を免れた。米国需給はメキシコ向け成約増が織り込まれて輸出需要が小幅に増加し、その分が期末在庫の減少になったが、農家価格見通しに変更はなかった。米国の最終生産高推定、四半期在庫調査報告、そして南米産地の作柄推定等、多くの重要な需給統計は来月に先送りされた印象の強い報告になった。

a. 米国需給一期末在庫（単位は百万ブッシェル）

	今月予測	市場予想	前月予測	前月との相違	前年実績	前年との相違
トウモロコシ	2,131	2,152	2,156	▲25	1,361	+770

米国農務省が輸出需要見通しを25百万ブッシェル引き上げて、2,100百万ブッシェルに上向き改訂したことに伴い、期末在庫見通しが25百万ブッシェル引き下げられた。エタノール需要は、輸出需要と同様に前年同期比で順調なスタートを切ったが、今回は改訂が見送られた。需給は小幅に引き締まった

が、農家価格は485セントで据え置かれた。前年実績は654セントだったので、169セントまたは26%の低下に相当する。

b. 国際需給（単位は万トン）

	12月予測	11月予測	前年度推定	前年比	前月比
生産高	122,207	122,079	115,724	+6,489	+128
総消費量	120,695	120,503	116,766	+3,929	+19
貿易量	20,146	19,962	18,098	+2,048	+184
期末在庫	31,522	31,499	30,010	+1,512	+29

今回、作柄推定が上向き改訂されたのは、ロシアとウクライナでそれぞれ100万トン引き上げられたことに伴うものである。ウクライナは輸出見通しが100万トン増の2,100万トンに引き上げられたが、ロシアからの輸出は530万トンで据え置かれた。メキシコは悪天候から生産高が100万トン下方修正されて、輸入見通しが80万トン増加、中国の輸入見通しは前年度の1,871万トンを大幅に上回る2,300万トンで据え置かれた。ブラジルの1億2,900万トン、アルゼンチンの5,500万トンの生産高予測は据え置かれた。

一方でブラジルのCONAB（食料供給公社）は1億1,850万トンに下方修正し、アルゼンチンでも民間調査機関は5,200万トンと慎重な予測を示している。今後播種が終わり初期生育の状況が判明する時点まで、米国農務省は南米の作柄判断を先送りしたと言える。

c. 国際市場の競争状況（ブラジルとの競合）

米国農務省は、国際市場での顕著な変化は、2年連続でブラジルが世界第一位の輸出国になる見通しと報告している。12月の米国農務省の飼料穀物の貿易報告では、日本向けトウモロコシについて特集記事が掲載されている。

『かつて無かったことであるが、前年度に日本はブラジル産のトウモロコシを690万トン輸入して、米国産を追い抜いた。米国からの日本向け輸出は前年比31%／290万トンの減退になった。これまで米国産は日本の市場で75%を超えるシェアを保有していたが、昨年は46%に後退した。米国のシェアが50%を割り込んだのは、2012／13年度の大旱魃の時以来のことである。近年

の日本は世界で第4位のトウモロコシ輸入国で、米国産トウモロコシの約20%、または24億ドルを購入して来た。

この変化は、輸入国側で起こった超高値のトウモロコシを他の飼料穀物で代替する動きが大きく影響している。まず、国内産の飼料用コメの利用拡大が起こり、価格が輸入トウモロコシと競争的な水準に設定されたことが挙げられる。このため、トウモロコシの配合比率はそれまでの平均48%から45%に低下した。円安により輸入コストが高値になったことが更なる逆風になった。

しかし、最大の要因は、ブラジルから安価なトウモロコシが供給されたことである。季節的に、日本は米国とブラジルとの間で輸入先を移動させて来た、中でも米国の端境期とその後の物流の混乱が米国産を割高にしたことで、前年度後半にはブラジル2期作トウモロコシが40ドル程の割安で提供された。今年は、ブラジル産との格差が競争的な水準に戻り、日本向けの成約状況は平年以上の水準に回復している。』

直近の週間輸出入成約高は合計4,007.4千トン（既船積が1,043.7千トンと未渡し成約が2,963.7千トン）に達し、前年同期の1,612.7千トンの約2.5倍になった。

d. パナマ運河の航行規制が強化される（米国農務省の物流週報からの抄訳）

『パナマ運河を構成する合計12の閘門に水を供給する幾つかの湖の中ではガトゥン湖が最大であるが、船腹が通行するのに必要な水量は50百万ガロンと言われる。この地域は、1-5月が短い乾季で、5月-翌年1月が長い雨季になるが、この間に真水が湖に供給される。しかし、パナマでもエルニーニョ現象の影響で、今年の雨季は例外的に乾燥した天気になり、ガトゥン湖の水位を記録的に低下させた。11月20日現在のガトゥン湖の水位は、近年の平均値よりも5%低下した。

パナマ運河の管理会社はガトゥン湖の水の需給に毎日大量の不足が生じるとして、この旱魃に対して二つの管理方針を打ち出した。その一つは船腹のドラフト規制で、二つ目は一日当たりの運河の通行隻数の規制である。水深の規制は、巨大パナマックスに対して安全な通行に必要な水深が、50FTか

ら44FTに引き下げられた。通常のパナマックスは39.5FTで変わりはない。ドラフトが切り下げになることは、運航者に貨物積載量の削減を強いることを意味する。一日当たりの通航隻数の規制は、現在は通行に事前予約制になっているが、今の干ばつ状況を勘案して、11月30日までの期間は36回／日を24回／日に制限することにした。今後12月及び翌年1月の予定は段階的に規制を厳しくして、2月は18回／日に通航隻数が減少する予定である。』幸い、穀物は北米西岸にも輸出基地があることで影響が回避できるが、ガルフ地域以外に代替の輸出基地を持たないエネルギー商品などでは、パナマ運河が果たしてきた機能とその代替先の検討を始めて早すぎることはない。

9. 年末に向かって、底値鍛錬が継続することになったトウモロコシ市場

11月中旬の米中首脳会談に先立って、中国が米国産大豆を300万トン程買い付けたことを好感して大豆が買い進まれたが、14ドルの節目が大豆の心理的な上値抵抗線に働く中、ブラジル中西部の高温乾燥が和らいだとの報告が利益確定の売りを誘った。

トウモロコシは、11月の需給報告で弱材料の出尽くし感が広まり、テクニカルに底値感からの反発を見せたが、買いが広まらずに480セントが上値抵抗線になって小反発で終わった。更に大平原の冬小麦が高い作況評価を保って、休眠期入りするとの報告からカンザスの小麦定期が安値を更新して、トウモロコシにとその弱地合が波及した。

感謝祭休日の頃に、北半球の小麦産地が冬の休眠期を迎え、南半球で小麦の収穫が進展する中、南米産地はエルニーニョ現象による悪天候の下で、春作物の播種作業が進展した。

アルゼンチンでは有権者が、自由至上主義者を自認するミレイ候補を次期大統領に選び、政権交代が大きな驚きになった。ペロン党政権による長年の公共料金の抑制と補助金や高福祉政策の結果、年率100%を超える高インフレで経済が破綻したアルゼンチンを、経済の米国ドル化、中央銀行の廃止、そして脱BRICSという荒治療で再生させるという選挙公約に託することになり、

農家は過重な輸出税の廃止や通貨の切り下げを期待している。

中東では、イスラエルとパレスチナ過激派ハマスとの間で短期間の休戦合意が成立して、部分的な人質交換が始まった。パレスチナでの地政学リスクは、中東地区からの原油供給が途絶する事態が連想されたので、事件発生当初にWTI先物は90ドル台に高騰したが、シェール革命や代替燃料の供給増加により、原油の国際需給の枠組みが変容したらしく、原油相場は70ドル半ばの年初の水準に戻され、OPECプラスの協調減産に対する不協和音から軟弱な展開に転じた。

感謝祭休日明けは、米国のインフレが抑制されつつあることが経済統計で確認されると、外為市場では米国ドル高が修正され、債券や株式は月間の上昇幅が、昨年秋以降の最大になった。FRBが今回の利上げサイクルを終了し、来年前半には利下げに転じるとの観測が強まり、米国金利の軟化が債券と株式に買いを促し、米国ドルへの圧迫材料になった。

シカゴの穀物市場は、一時的にトウモロコシは470セント、小麦は550.25セントとそれぞれの安値を更新した。大豆は好調な輸出成約動向にも拘らず、南米産地の天気回復により利益確定のために売られた。トウモロコシや小麦は、米国ドル安とチャートの底値感が重なり、輸出成約高が今季の最高になったことを手掛かりに、テクニカルな反発を見せるようになった。

シカゴの穀物市場は、久しぶりに中国の買付が活発化した小麦の上値余地が試されたが、6ドル半ばがテクニカルな上値抵抗線となり上値が重くなり、8月下旬以来の高値に戻ったことから利食い売りを受けた。大豆は、南米産地の天候回復のほか、遅れていた船積みが予想以上に順調だったことが利益の確定売りを誘った。

トウモロコシは小麦ともども大きな売持ちを抱える投機筋の買い戻しで、底値鍛錬からの脱出に挑戦した。急拡大した小麦とトウモロコシの格差が割安感を生んだが、トウモロコシは20日移動平均線を挟んでの小幅な値動きに終始した。12月の需給報告は、小麦とトウモロコシで輸出需要見通しの引き上げによる期末在庫の小幅な引き下げが行われ、大豆は播種時期の悪天候を反

映してブラジルの作柄見通しが小幅に下方修正されたが米国需給には変更はなく、ミュート（無音）と評された。民間調査機関はブラジルの作柄見通しの引き下げに舵を切ったが、米国農務省は現状追認型の予測手法を守り、南米産地の作柄見通しは公的予測と市場の認識との乖離が広まりつつある。

年末が迫る中、金融市場では12月のFOMCで政策金利が3会合連続で据え置かれた上に、パウエルFRB議長が利上げサイクルの終了を示唆したことで、国債利回りが一段と低下すると、米国ドルの下落と株式市場の高値更新が続いた。バイデン政権が議会に要請したウクライナやイスラエルへの追加支援法案は、国境警備の強化や不法移民対策の内政問題を最優先する共和党の反対で、年内に実現しなかった。穀物需給統計のみならず、国際社会の懸案事項も、そしてFRBが何時から本格的に利下げに動くのかも含めて、多くの課題が新年に先送りされる中で、2023年が終わろうとしている。

USDA需給報告（US産トウモロコシ）

報告月次	22/23年度			23/24年度		
	10月	11月	12月	10月	11月	12月
作付面積	88.6	88.6	88.6	94.9	94.9	94.9
収穫面積	79.1	79.1	79.1	87.1	87.1	87.1
単収	173.4	173.4	173.4	173.0	174.9	174.9
生産高	13,715	13,715	13,715	15,064	15,234	15,234
期首在庫	1,377	1,377	1,377	1,361	1,361	1,361
輸入	39	39	39	25	25	25
総供給量	15,130	15,130	15,130	16,451	16,621	16,621
飼料用途	5,549	5,549	5,549	5,600	5,650	5,650
産業用途	6,559	6,558	6,558	6,715	6,740	6,740
エタノール	5,117	5,176	5,176	5,300	5,325	5,325
国内消費	12,108	12,108	12,108	12,315	12,390	12,390
輸出需要	1,661	1,661	1,661	2,025	2,075	2,100
総需要量	13,769	13,769	13,769	14,340	14,465	14,490
期末在庫	1,361	1,361	1,361	2,111	2,156	2,131
在庫率(%)	9.88	9.88	9.88	14.72	14.90	14.71

注：面積は100万エーカー、単収はブッシェル・エーカー、生産・消費は100万ブッシェル。

世界のトウモロコシ需給バランス 23/24年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 11月予測	29,922	122,079	18,987	75,978	120,503	19,962	31,499
世界 12月予測	30,010	122,207	19,153	76,130	120,695	20,146	31,522
中国	20,604	27,700	2,300	22,300	30,400	2	20,202
除 中国	9,406	94,507	16,853	53,830	90,295	20,144	11,320
米国	3,458	38,697	64	14,352	31,472	5,334	5,412
除 米国	26,552	83,510	19,089	61,778	89,223	14,812	26,110
アルゼンチン	111	5,500	1	980	1,410	4,100	101
ブラジル	1,027	12,900	120	6,350	7,750	5,500	797
ロシア	91	1,700	5	1,050	1,160	530	106
南アフリカ	225	1,680	0	730	1,360	340	205
ウクライナ	280	3,050	2	450	550	2,100	682
エジプト	151	720	850	1,330	1,580	0	141
欧州	723	6,010	2,450	5,930	8,020	420	743
メキシコ	450	2,550	1,960	2,800	4,660	20	280
東南アジア	303	3,086	1,805	4,000	4,830	61	303
韓国	190	9	1,180	950	1,185	0	194
日本	130	1	1,550	1,200	1,550	0	131

単位は10,000トン。

世界の大豆需給バランス 23/24年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 11月予測	10,031	40,042	16,575	32,947	38,368	16,829	11,451
世界 12月予測	10,192	39,888	16,765	32,950	38,396	17,029	11,421
中国	3,379	2,050	10,200	9,800	12,050	10	3,569
除 中国	6,813	37,838	6,565	23,150	26,346	17,019	7,852
米国	730	11,239	82	6,260	6,606	4,776	668
除 米国	9,463	28,650	16,683	26,690	31,790	12,253	10,753
アルゼンチン	1,721	4,800	570	3,450	4,175	460	2,456
ブラジル	3,535	16,100	45	5,575	5,970	9,950	3,760
パラグアイ	26	1,000	2	350	365	600	63
欧州	132	307	1,380	1,500	1,659	30	129
メキシコ	22	14	640	648	654	0	22

単位は10,000トン。

春季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回も会場開催と同時にweb配信を行う予定です。どちらでのご参加を希望されるかも、お申し込みの際ご連絡いただきますようお願いいたします。

記

日 時：令和6年3月7日(木) 14時～15時30分
(会場開催の受付開始13時30分～)

場 所：新橋ビジネスフォーラム <http://biz-forum.jp/access.html>
港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル 8 F TEL 03-5843-9169

演 題：「2024年の世界経済見通し」(仮題)

講 師：三井物産(株) (予定)

参加料：無料 (定員となり受付できない場合のみこちらからご連絡差し上げます)

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 宮本宛 Email：jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp

電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

編集後記



元日の午後、お屠蘇気分で横になってラジオを聴いていたら、緊急地震速報が入った。関東の揺れはそれほどでもなかったが、直後に津波警報、さらに大津波警報が発令され驚いた。津波被災地に赴任した経験もあり、津波には敏感になっている。そして翌日に羽田空港での大きな事故。お正月気分が吹っ飛んだという方も少なくないと思う。そういう中で、旅客機の乗員乗客に死者がなかったのは不幸中の幸いであるばかりではなく、乗員の訓練の賜物であり、日本の誇りであると思った。

視点を我々の業界に移すと、あまり大きな話題にはなっていないが、今はかなりの食料安全保障上の危機になっていると感じる。「ウクライナの戦争で穀物の供給が…」という世間でよく言われている要因によるものではない。危機的状況になっている穀物の輸入に直結する海運についてである。パナマ運河は降雨不足による低水位で航行に支障が生じている。スエズ運河は紅海の治安問題で実質的に通行できない。米国ガルフ積の穀物本船、日欧のコンテナ船等が喜望峰経由となり、運賃コストが上昇するだけでなく、在庫不足が懸念される事態になりかねない。

食料供給の安定確保というと、量的な確保に目が行きがちになるが、量的に確保されても、それを消費者や加工業者に行き渡るところまで完結して初めて意味がある。この点については、別の機会でご改めて述べてみたい。

実際には、ここで申し上げた穀物の安定供給確保に対する懸念はほとんど報じられていない。それは、本件が世の中に認知されていないからだけではなく、穀物の輸入商社が安定供給の努力をすることで、単なる利益の追求だけではなく、社会貢献しているからだということを強調したい。

毎年の1-3月号は、海外からの便り多くなるが、今号もなかなかの充実ぶりである。自らの体験に基づいた話は面白い。それを素直にお伝えすることが本誌の役割であると、新しい年に改めて感じている。

第60卷第1号／令和6年1月15日発行

発行人 姫野健二／発行所 東京都港区西新橋1-11-1 丸万一号館 飼料輸出入協議会

郵便番号 105-0003 電話 03(6457)9550